

令和5年度 第2回

高知市地域福祉計画推進協議会 資料

日時：令和6年2月26日（月）10：00～12：00

場所：総合あんしんセンター 3階 大会議室

目次

高知市地域福祉計画推進協議会委員名簿	．．．．．	P. 1
高知市地域福祉計画推進協議会条例	．．．．．	P. 2
施策の体系図	．．．．．	P. 4
高知市地域福祉活動推進計画（令和7～12年度）策定体制（案）	．．．	P. 5
令和6年度 計画策定スケジュール（案）	．．．．．	P. 6
＜報告・協議事項＞		
（1）第2期高知市地域福祉活動推進計画 進捗状況	．．．．．	P. 7
（2）地域福祉に関するアンケート調査結果	．．．．．	P. 31
（3）地域福祉に関する意見交換会結果	．．．．．	P. 42

＜別紙資料＞

- 【参考資料①】 令和5年度 地域福祉に関するアンケート調査結果
【市民】
- 【参考資料②】 令和5年度 地域福祉に関するアンケート調査結果
【市民・資料編】
- 【参考資料③】 令和5年度 地域福祉に関するアンケート調査結果
【民生委員・児童委員】
- 【参考資料④】 令和5年度 地域福祉に関するアンケート調査結果
【町内会長・自治会長】
- 【参考資料⑤】 令和5年度 地域福祉に関するアンケート調査結果
【専門職】

高知市地域福祉計画推進協議会委員名簿

委嘱期間:令和4年4月1日～令和7年3月31日

	所属	役職等	氏名
1	国立大学法人高知大学 教育研究部総合科学系 地域協働教育学部門	教授	玉里 恵美子
2	高知市地区社会福祉協議会連合会	代表	田所 稔
3	高知市町内会連合会	会長	長尾 達雄
4	高知市秦地区社会福祉協議会	会長	葛目 顕
5	高知市民生委員児童委員協議会連合会	副会長	岩田 護
6	サードプレイスすろー	代表	高橋 英美
7	社会福祉法人昭和会 東部障害者福祉センター	施設長	佐々木 和秀
8	社会福祉法人土佐香美福祉会 特別養護老人ホームウエルプラザ高知	理事 施設長	津野 高敏
9	社会福祉法人福井保育協会福井保育園	園長	渡辺 秀一
10	社会福祉法人みその児童福祉会 児童家庭支援センター高知みその	センター長	武樋 保恵
11	特定非営利活動法人NPO高知市民会議	専務理事	田中 佐和子
12	特定非営利活動法人地域サポートの会 さわやか高知	会長	三谷 英子
13	特定非営利活動法人土佐山アカデミー	事務局長	吉富 慎作
14	はるの大好き!スズメ元気会	会長	長崎 敬治
15	初月地区防災連合会	会長	松下 潤一
16	公募委員		木村 徹

●高知市地域福祉計画推進協議会条例

(平成 27 年 4 月 1 日条例第 46 号)

(設置)

第 1 条 高知市地域福祉計画（以下「地域福祉計画」という。）の策定及び推進等に当たり、広範な市民の意見を反映するため、高知市地域福祉計画推進協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(所掌事項)

第 2 条 協議会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 地域福祉計画の策定に関すること。
- (2) 地域福祉計画に基づく諸施策の進捗状況に関すること。
- (3) 地域福祉計画の推進の方策に関すること。
- (4) 地域福祉計画の見直しに関すること。
- (5) その他地域福祉計画の推進に関すること。

(組織)

第 3 条 協議会は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する委員 20 人以内で組織する。

- (1) 学識経験者
- (2) 関係団体の役職員
- (3) 市民
- (4) その他市長が特に必要と認める者

2 前項第 3 号の委員は、公募によるものとし、その選考に当たっては、高知市地域福祉計画推進協議会公募委員選考委員会（以下「選考委員会」という。）において審査する。

3 委員の公募の実施並びに選考委員会の組織及び運営について必要な事項は、市長が別に定める。

(委員の任期)

第 4 条 委員の任期は、3 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第 5 条 協議会に会長及び副会長 1 人を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を行う。

(会議)

第 6 条 協議会の会議は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。

(資料提供その他の協力等)

第 7 条 協議会は、その所掌事務を遂行するため必要があると認めるときは、関係部局その他の者に対し、資料の提出、意見の表明、説明その他必要な協力を求めることができる。

(守秘義務)

第 8 条 委員は、その職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(専門部会)

第9条 協議会の所掌事項について専門的に協議する必要があるときは、協議会に専門部会を置くことができる。

2 専門部会の組織及び運営について必要な事項は、市長が別に定める。

(庶務)

第10条 協議会の庶務は、健康福祉部において処理する。

(その他)

第11条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の日（以下「施行日」という。）の前日において置かれていた高知市地域福祉計画推進協議会（高知市地域福祉計画推進協議会設置要綱（平成24年3月13日制定）の規定に基づき組織されたものをいう。以下「旧協議会」という。）は、協議会となり、同一性をもって存続するものとする。

3 この条例の施行の際現に旧協議会の委員として市長から委嘱されている者及び旧協議会の会長又は副会長に選任されている者は、施行日において協議会の委員に委嘱され、又は会長若しくは副会長に選任されたものとみなす。ただし、その任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、旧協議会の委員並びに会長及び副会長としての残任期間に相当する期間とする。

< 施策の体系図 >

【基本理念】 だれもが安心して、いきいきと自分らしく暮らせる支え合いのあるまち

【スローガン】 地「参」地「笑」 福祉でまちづくり ～地域の宝（社会資源）を活かした「つながりのあるまちづくり」～

【基本目標】

【施策の方向性】

基本目標1

重点目標

地域共生社会の実現に向けた地域での課題解決力の強化

1-1

住民主体の地域福祉活動の推進

1-2

地域の多様な主体がつながる（連携・協働）仕組みづくり

基本目標2

重点目標

「おたがいさま」「ほおちょけん」の住民意識づくり

2-1

地域や福祉に関心をもつ機会づくりの推進

2-2

保育や学校教育や生涯学習と連携した啓発の仕組みづくり

基本目標3

地域活動など社会とつながる多様な交流の促進

3-1

地域活動につながる多様な交流の機会づくり

3-2

多様な社会活動の仕組みづくり

基本目標4

地域や福祉の担い手づくり

4-1

多様な担い手の発掘と育成の仕組みづくり

4-2

既存の活動をつないでいく支援

基本目標5

重点目標

つながりのある相談支援体制の構築

5-1

地域における見守り体制の強化と相談機能の充実

5-2

相談支援機関の連携体制の構築・強化

基本目標6

安全・安心につながる環境づくり

6-1

暮らしやすい生活環境の整備

6-2

災害時対策の充実

基本目標7

地域共生社会の実現のための体制基盤強化

7-1

市社協の役割の明確化及び機能強化

7-2

市の役割の明確化及び機能強化

高知市地域福祉活動推進計画（令和7～12年度）策定体制（案）

高知市地域福祉計画推進協議会

役割：計画素案検討審議，計画原案検討審議・了承
委員数：20名以内（うち公募委員若干名）

パブリックコメント

計画素案・計画原案の提示
現計画の評価

事務局

役割：具体的方策の検討，計画素案・計画原案の作成

高知市社会福祉協議会

地域協働課
共に生きる課
総務調整課

高知市

地域共生社会推進課

計画策定のための現状・課題の把握，分析

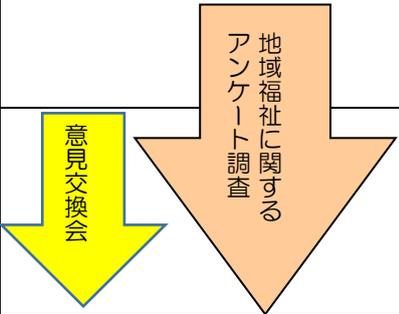
意見交換会

対象：福祉委員
ほおっちょけん学習サポーター
生活支援ボランティア

地域福祉に関するアンケート調査

対象：16歳以上の高知市民
民生委員・児童委員
町内会長・自治会長
専門職

令和5～6年度 計画策定スケジュール（案）

時期	取組	主な内容
令和5年 5月	令和5年度 第1回 計画推進協議会	第2期高知市地域福祉活動推進計画 進捗状況等
9月～ 令和6年 1月		
2月	令和5年度 第2回 計画推進協議会	(1) 第2期高知市地域福祉活動推進計画 進捗 状況等報告 (2) アンケート調査結果報告 (3) 意見交換会結果報告
5月	令和6年度 第1回 計画推進協議会	(1) 地域福祉コーディネーターの活動の総括 (2) 第2期高知市地域福祉活動推進計画の総 括 (3) 高知市の地域福祉に関する現状・課題と 方向性
6月	再犯防止推進計画 ○庁内関連部署担当者 との意見交換会 ○関係機関との意見交 換会	
8月	令和6年度 第2回 計画推進協議会	第3期 計画概要（案）の審議
9月	令和6年度 第3回 計画推進協議会	第3期 計画素案の審議
11月	令和6年度 第4回 計画推進協議会	第3期 計画原案の審議
令和7年 1月	パブリックコメント	
2月	令和6年度 第5回 計画推進協議会	第3期 計画原案の承認
3月	市長報告	

<報告・協議事項>

(1) 第2期高知市地域福祉活動推進計画 進捗状況

① 高知市の取組

令和5年度 第2回 高知市地域福祉計画推進協議会 資料

高知市の取組

令和6年2月

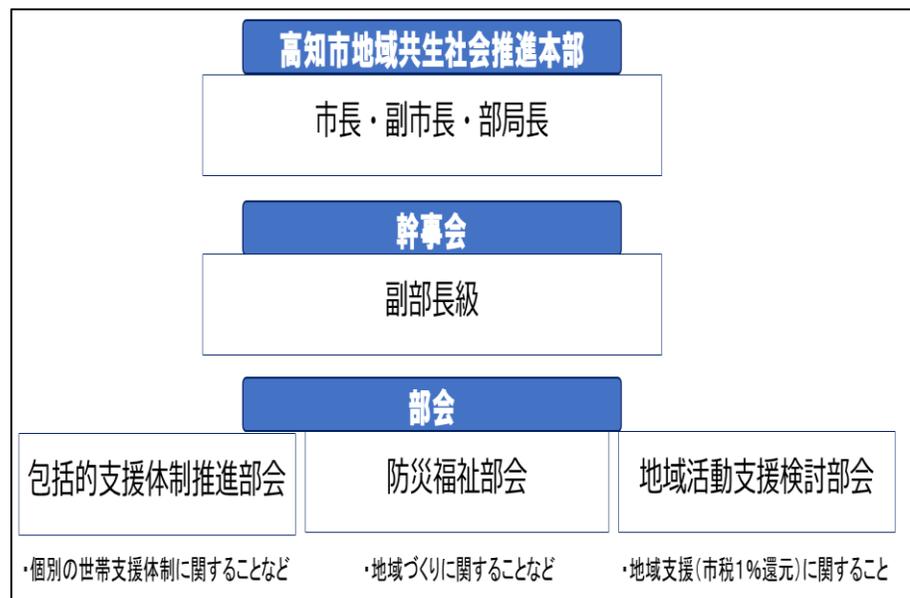
地域共生社会 スケジュール

		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
地域福祉計画		・第2期計画スタート		NEW ・中間見直し(重層的支援体制整備事業実施計画記載) ・再犯防止計画策定	・計画に基づいた事業実施	・アンケート実施	・第2期総括 ・第3期計画策定 NEW
(1) 庁内連携体制の強化	庁内取組体制の強化	NEW ・健康福祉総務課に地域共生社会推進室を設置 NEW ・地域共生社会推進委員会の設置		強化 ・地域共生社会推進室を課に昇格	庁内外マネジメント ⇒ 連携の推進		
	職員の人材育成		・部会を順次開始, 庁内への周知	NEW ・本部へ体制強化 本部会にて情報共有, 方針決定 ⇒ 全庁的な取組体制の構築			
	地域別共生カルテによる地域の情報共有		NEW ・防災福祉部会, 地域福祉WGを活用した試行検討 NEW ・「高知市社会福祉士・精神保健福祉士人材育成方針」の策定	NEW 階層別研修(4・7・12年目研修(R3)→順次拡大を検討) ・その他研修方法検討	NEW ・窓口部署/相談支援部署職員への研修	NEW 福祉部門合同新人研修 窓口部署職員対象研修 相談支援部署職員対象研修 職員間の連携体制向上の取組	
			NEW ・試行(2地区), プロセスの確立 NEW ・実施体制・スケジュール, 活用・管理方法検討	情報共有, その過程において協議した取組の実践, 振り返り(カルテ見直し, 更新)			
「包括的な支援体制の構築」	ほおっちょいん相談窓口	NEW ・5地区で開設(一宮・江ノ口西・旭・春野・三里)		拡大 ・5地区で開設(秦・初月・大津・高須・五台山)	拡大 全市へ展開		拡大 薬局・社会福祉法人以外にも拡充
	相談支援包括化(多機関協働)	NEW ・関係課ヒアリング	NEW ・辞令等準備, フォロー体制検討 NEW ・包括化のツール・ルールの検討協議	NEW 包括的相談支援員配置	充実 相談支援の包括化による個別支援の本格実施(支援会議:月1回) 各支援方法のブラッシュアップ	NEW ・基幹型地域包括支援センターの体制強化	
	高知くらしつなごるネット(Licoネット)	NEW ・事業者選定 ・運用開始	充実 相談窓口整理 ・業態追加	充実 情報の充実 各種機能の活用促進			
重層的支援体制整備事業		NEW 移行準備(関係課協議, 委託先への周知, 予算等)	NEW 移行(包括的支援体制の仕組づくり)				
高知市社会福祉協議会への支援	財政的支援(地域福祉コーディネーター人件費, 運営費)						
	人的支援(地域福祉コーディネーター活動支援・庁内関係課等へのつなぎ支援, 市職員の派遣)						

I 庁内連携体制の強化

① 仕組みと人材育成

連携の仕組み × 職員の意識醸成



対象	時期・回数	参加者数
相談支援部署研修 (高齢・障害・子ども・生活保護・生活困窮等の相談支援を担う部署(委託先含む))	11~12月 計3回	延べ225人
相談支援部署新任者合同研修 (高齢・障害・子ども・生活保護・生活困窮等の相談支援を担う部署の配属1~3年目職員)	5~7月 計3回	延べ約160人
窓口部署研修 (税・国保・介護・窓口センター・市民会館などを中心に全庁へ呼びかけ)	1~2月 計6回	延べ約280人
全庁階層別・新採研修 【4・7・12年目, 新採】	4・7・10月	

「担当じゃありません」は、完全に時代遅れです。

だからといって、全部自分がやればいいって話ではない。部署別の業務がある。役割分担がある。担当もある。「これはあそこの仕事だ。」「これはあの人の担当だ。」は必要。でも... もっと何かできないか、もっと高知市を良くするために。



2 包括的な支援体制の構築

① 複合課題を抱えている世帯への支援

複合課題を抱えている世帯への支援

年度	相談受付 件数	支援会議等		事例分類 ※重複あり							
		実数	延べ数	8050	ダブルケア	ごみ屋敷	ひきこもり	不登校	ヤングケアラー	医療の必要	その他
R4	18	10	12	1	0	5	5	4	0	5	0
R5	19	13	23	2	0	2	2	7	1	5	6

課題

(1)福祉部門が介入しても解決に至らないケースの増加

- ①支援を受け入れないケース
 (「病識なし(受診拒否)」「障がい認識なし」「困り感なし」
 「コミュニケーション 困難」「ほっちょけ」「ごみじゃない」など)
- ②支援に合意し、解決に向けて支援するが、何度も繰り返すケース
- ③改善したいと思っているが、経済的理由などによりできないケース

(2)ご近所迷惑(家屋倒壊や火災の危険性・公衆衛生等)への対応

本人への支援と合わせて、ご近所迷惑も考慮した対応も必要

(3)担当者の負担増

- ①全体に対する負担
 - ・介入後、長時間かかる場面(支援の受入拒否など)
 (精神疾患等の疑いがあるが、受診していないケースが多い)
 - ・複雑な法解釈などが必要な場面における対応
 - ・地域住民からの苦情等への対応(福祉部門のみでは限界)
 - ②ごみ屋敷対応の負担
 - ・清掃・片付けの支援による負担(匂い、虫、衣服が汚れるなど)
 - ・【済】ごみを廃棄する負担(ステーションには一気に出せない)
- ※R4年度に環境部との連携体制を整理
 パッカー車を活用し解決した件数 5件

各課など

- ・相談対応
- ・一次アセスメント



地域共生社会推進課

- ・多機関協働による
支援の検討



各課対応



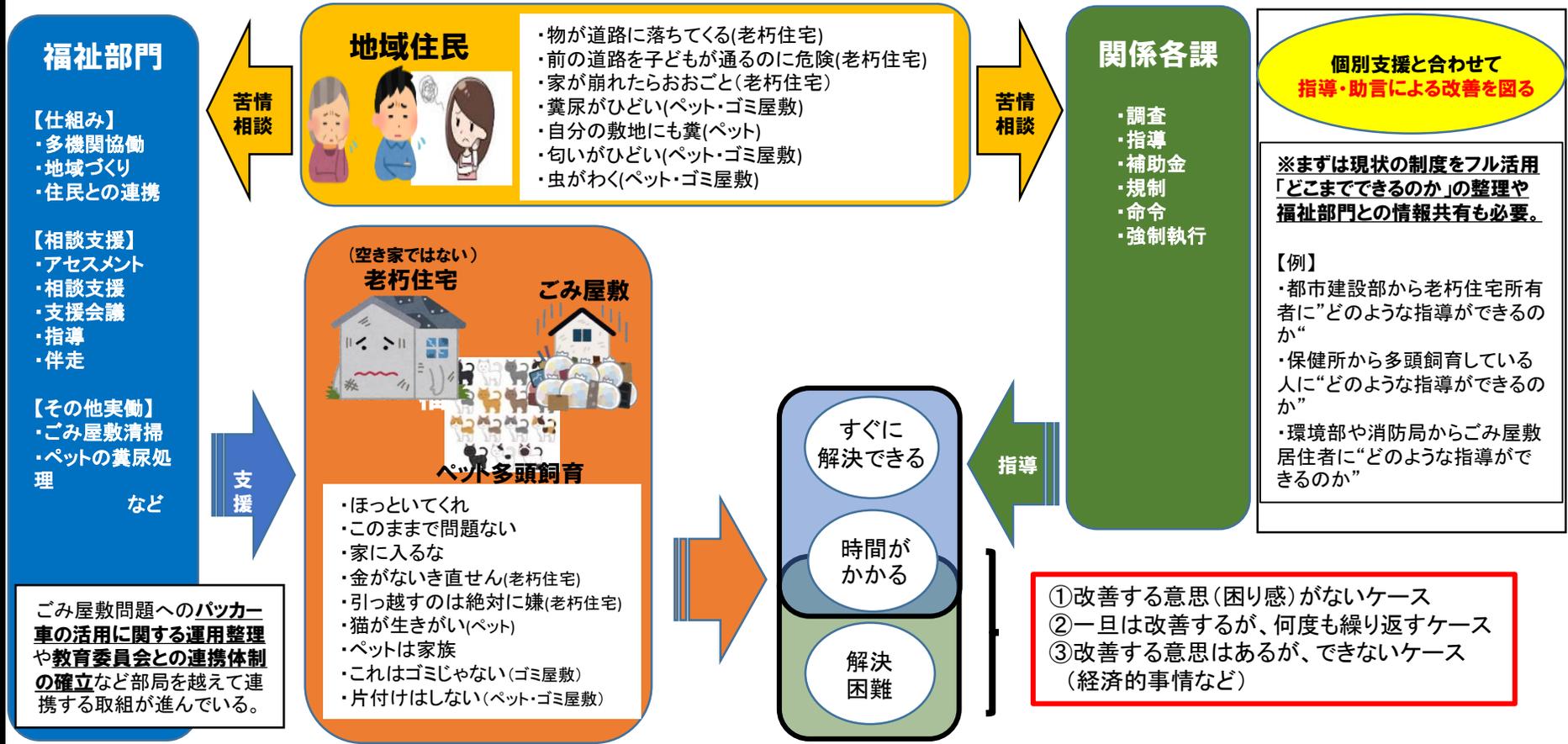
支援会議
重層的支援会議

2 包括的な支援体制の構築

② 双方向からの支援

「福祉的な支援」と「改善指導」の双方向からの支援

「個別ケース対応 = 福祉での対応」ではなく全部署が主体的に考えることが重要



2 包括的な支援体制の構築

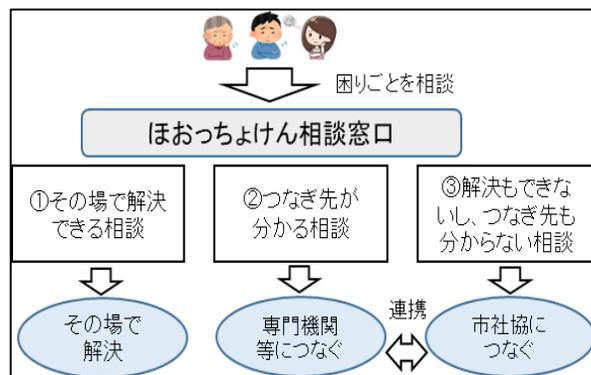
③ ほおっちょけん相談窓口

○ **薬局**や**社会福祉法人**（介護、障がい、保育など）に設置

○ 現在 **105か所**設置済

○ **無償**で協力いただいている

○ 相談窓口の入口に目印の**シール**を貼付



2 包括的な支援体制の構築

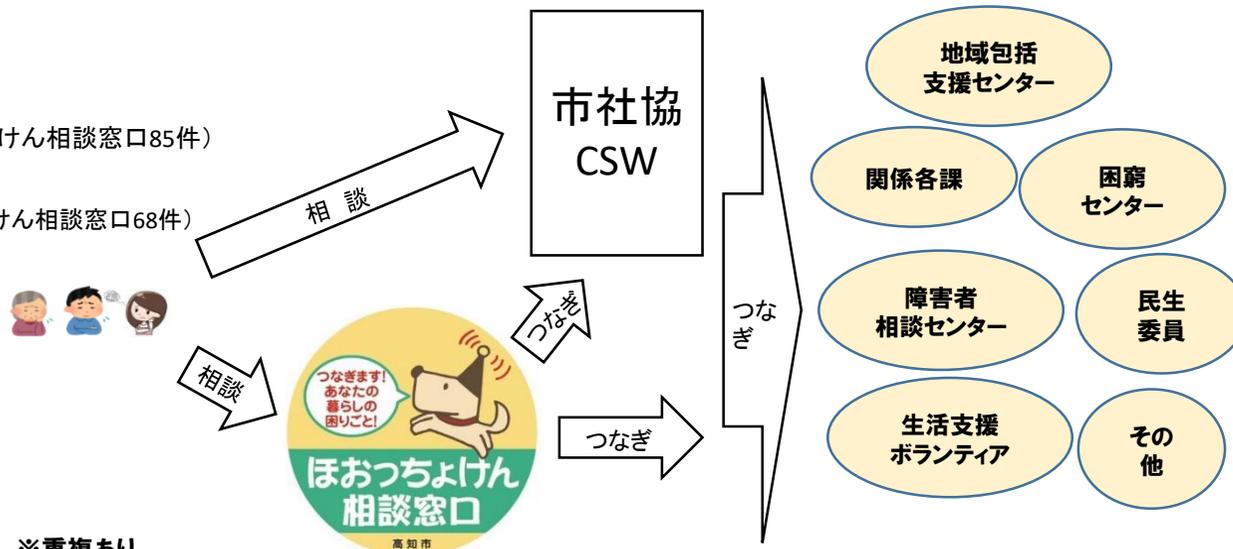
④ 相談実績

相談受付件数

R4: 360件 (うちほおっちょけん相談窓口85件)

R5: 160件 (うちほおっちょけん相談窓口68件)

※R5は1月末時点



R5年度の内訳

※重複あり

介護	障害	子育て	経済的困窮	病気や健康	掃除	庭掃除	ごみ出し・分類	電球交換	買い物	家族との関係	ご近所との関係	社会参加	その他
23	2	2	8	6	3	4	14	2	0	4	4	8	96



その他の内訳

対応内容	件数
関係機関につないだ	58
関係機関を紹介した	23
情報提供や相談対応で終了	65
対応開始	14

- ・ペットのこと
- ・スマホが無くなった。鳴らしてくれないか
- ・市外にあるお墓が気になる
- ・隣の家がごみ屋敷
- ・インターネット関係が分からない
- ・ハチの巣で困っている
- ・隣の家の人が心配
- ・百歳体操を始めたいけどどうしたらいいか



2 包括的な支援体制の構築

⑤ 相談内容

ほおっちょけん相談窓口への相談内容

介護に関すること

- 体調が悪く介護申請をしたい
- 退院後の介護に関して相談したい
- 親が左半身麻痺もあり引きこもり状態になっている。外に行く機会や誰かと話をできる人がいてほしい
- 夫が引きこもり状態。物も捨てさせてくれない。夜も眠れず精神的に疲労が重なっている(高齢者)
- 独居で将来を考えると施設に入ることを考えたい。介護認定は受けてないが施設に入ることはできないか。

障害に関すること

- 障害年金が終わった後の、年金について知りたい
- 身体障害者手帳を所持してから一度も税金の控除を受けたことがない。税金の払い戻しはできるか
- 発達障害があり、仕事に支障がある。支援してくれるところはないか(親族からの相談)

子育てに関すること

- 子どもの離乳食の相談をしたい。

経済的困窮に関すること

- 新型コロナウイルスでの貸付けの申請がしたい

生活に関すること

- お弁当をとりたい。部屋の掃除も困っている(高齢者)
- 近くのスーパーが閉店し、食事等の買い物が不便になった
- 体温計の電池が切れた
- 血圧計の時計の表示がおかしい
- 戸車の交換をしたい。手伝ってくれる人はいないか
- 洗面所の排水管からの水漏れ
- 買い物を手伝ってほしい
- 電球交換してもらいたい
- 草刈りをお願いしたい
- ハチの巣駆除
- 洗濯を手伝って欲しい(コインランドリーの付き添い)

その他

- 欲しい防虫剤がなく、他の防虫剤を買ってきたが大丈夫か
- 子ども食堂について知りたい
- コロナワクチンの予約の仕方を教えてほしい
- 湿布薬が自分で貼れない
- 特定疾病の手続きについて知りたい
- 成年後見制度について
- 障害があり災害時の避難をどうすればよいか等不安がある
- 夫婦間のトラブル

3 社会資源等の情報の収集と提供

①高知くらしつながるネット「リコネット」の実績

高知くらしつながるネット (Licoネット)

関係者の方はこちら>

お知らせ

2023/09/13 **重要**
令和5年度 高知市社会資源情報収集提供事業調査の実施について

2023/05/15 **重要**
よくあるご質問

2023/05/15
《お知らせ》操作・検索方法はマニュアルをご覧ください

2021/04/07
《お知らせ》イベントカレンダーへの情報掲載について

2020/03/09
《お知らせ》新型コロナウイルス感染症関連情報

詳細検索へ > 一覧

さらに

○グループツール活用による支援者の業務効率化と情報共有の推進

- ・居宅介護支援事業所連絡協議会ブロック会
- ・介護保険サービス事業所
(介護保険課からの連絡を一本化。FAX送信を廃止)
- ・障害福祉サービス事業所

など

	期間の総PV数合計	期間の総PV数	カテゴリ検索における分野ごとのPV数					
			医療	介護	障害	子育て	地域資源	相談窓口 (R2年8月~)
1月		4,229	-	-	-	-	-	-
2月	35,904	23,895	1,005	1,102	325	581	714	-
3月		7,780	174	208	85	110	147	-
4月		6,056	128	102	97	52	51	-
5月	140,474	6,403	49	16	76	52	47	-
6月		9,662	105	246	101	67	86	-
7月		9,992	93	293	115	94	204	-
8月		7,757	47	168	68	51	60	47
9月		11,225	134	157	134	109	90	34
10月		13,547	153	278	155	110	179	72
11月		11,806	179	172	123	95	109	59
12月		12,191	91	122	94	79	69	72
1月		22,175	179	172	123	95	109	59
2月		12,811	44	129	76	73	64	33
3月	191,710	16,849	92	262	213	73	82	46
4月		13,964	43	180	133	63	38	25
5月		14,859	61	148	113	91	79	57
6月		20,659	278	268	251	95	105	74
7月		14,718	81	196	118	38	51	49
8月		12,194	49	245	93	60	68	42
9月		16,461	71	205	95	63	74	66
10月		16,553	99	175	111	62	90	42
11月		15,563	83	229	109	100	109	57
12月		15,067	64	215	84	38	90	40
1月	217,318	23,398	203	259	162	148	121	108
2月		14,431	29	157	87	59	58	31
3月		13,843	55	154	73	50	63	27
4月		15,532	61	270	75	45	91	59
5月		14,828	52	195	84	45	70	42
6月		23,638	206	374	206	74	110	57
7月		16,324	47	181	111	68	124	54
8月		16,363	60	103	112	39	55	41
9月		17,695	43	137	69	36	40	38
10月		20,782	61	115	81	53	101	97
11月	18,891	54	102	77	57	55	17	
12月	15,339	32	96	73	12	42	41	
1月	152,483	21,847	88	120	114	41	63	39
2月		20,866	94	137	140	52	52	56
3月		15,213	45	113	111	13	46	22
4月		15,168						
5月		17,969						
6月		21,899						
7月		18,975						
8月		17,193						
9月		16,898						
10月		16,074						
11月	16,033							
12月	12,274							
1月								
2月								
3月								
合計		737,889	4,432	7,801	4,467	3,043	3,806	1,602

令和5年度からは集計ソフトの変更のため、カテゴリ検索における分野ごとのPV数は報告なし。

防災福祉部会の拡充

地域づくりに関わる関係部署が、より効率的・効果的に地域づくりを進めるため、**情報共有や連携を深める**ことを目的に設置している場

小学校区ごとに担当者が集まり「地域課題の共有」や「施策の連携」、
「新たな取組の創出」などを協議している。

- ・地域共生社会推進課(**全体調整**)
- ・地域コミュニティ推進課(**まちづくり**)
- ・地域防災推進課(**防災**)
- ・基幹型地域包括支援センター(**福祉**)
- ・地域協働課(**社会福祉協議会**)

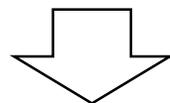
+

- ・消防局
- ・教育委員会
- ・市民図書館

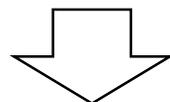
防災福祉部会ブロック会

①地域情報を共有（人口，地理地形，社会資源等）

②各課が把握している地域ニーズ（課題）を共有



③コア担当者が具体的な取組内容，役割分担等を協議



地域へ提案し協働。具体的な取組を実施へ

4 地域づくり

③ 城西中学校 × 升形商店街

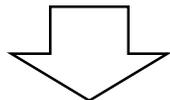
One For All in 城西中
地域の魅力発信！一笑千金 ～城西中校区に笑顔を～

城西中 × 升形商店街のコラボを支援

① 防災福祉部会担当者会で検討

- ・市社協 ・地域コミュニティ推進課
- ・地域防災推進課 ・地域包括支援センター
- ・学校教育課

地域と学校がつながる機会を作る取組をしよう



・住民への生活支援やまちづくりの視点など複数のプランを準備

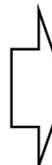
② 学校(校長)と相談

地域学校協働本部で地域とのつながりづくりについて検討はしていたが、具体的な案はまだ出ていない。学校としても生徒会と一緒に考えてもらえるならありがたい。



③ 生徒会との協議

多世代で交流できること(昔遊び等)を、現在開催しているバザーに取り入れて、商店街や地域を巻き込んでやってみたい！



イベント開催



⑥ 資金確保

こうちこどもファンド活用



⑤ 合同企画会議

21回開催



④ 升形商店街への提案・顔合わせ



升形商店街とコラボしたイベント開催に向け動き出すことに！

支援

- ・高知市社会福祉協議会
- ・上街・高知街・小高坂地域包括支援センター
- ・地域コミュニティ推進課

4 地域づくり

④ One For Aii in 城西中

取り組み内容

テーマ: One For All in 城西中 地域の魅力発信!
一笑千金 ~城西中学校区に笑顔を~

開催日時: 令和5年9月17日(日)11:00~15:00

会場: 城西中学校体育館・中庭

内容: 販売(城西中ブース:アイスクリン・ジュース・米袋バッグ)

(升形商店街:焼きそば・フランクフルト・菓膳ジュース・花の苗・野菜)

防災(防災ツアー)

配布(升形商店街案内パンフレット・バルーンアート・綿あめ)

首遊び(かるた大会・紙ひこき大会・射的)

ステージ(吹奏楽部演奏・〇×クイズ)

アンケート(年代・升形商店街・城西中に関する内容・イベント感想など)



升形商店街との協働

商店街案内パンフレットの作成・配布

商店街の各店舗にアンケートを実施。升形商店街で店を始めたきっかけや、やりがい、おすすめメニュー、城西中学校へのメッセージなどを聞き取りし、升形商店街案内パンフレットを作成。

イベントの来場者に配布し、升形商店街の魅力を発信した。



ブースの運営

生徒会以外の学生にも当日のボランティアを募り、商店街の方々と協働して運営を行った。



生徒会の運営ブース

バルーンアート

綿あめ

射的

ジュース販売



アイスクリン販売

米袋バッグ販売

【地域福祉コーディネーターの支援】

- バルーンアートの講師として、住民ボランティアを調整。
- 近隣の町内会長へのイベント開催の広報
- 升形商店街のブース運営に関する調整

生徒会の運営イベント

防災ツアー

〇×クイズ

紙ひこき大会



かるた大会



住民「この取組を**伝説**にするのか、**伝統**にするのか子どもたちに考えてほしい。」
学校と地域とのつながりが**伝統**になるように引き続きバックアップしていく

企業の社会貢献の思い

高齢者に関する地域貢献活動
●×スーパー

- ・買い物支援
- ・一人暮らし世帯の見守り活動
- ・生活支援

子どもに関する地域貢献活動
●×サービス業

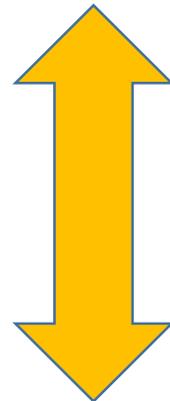
- ・子ども食堂のお手伝い
- ・学習支援
- ・職業体験イベントの実施

自然や環境に関する地域貢献活動
●×事業所

- ・公園や道路などの清掃
- ・緑化活動
- ・ゴミ拾いイベント

まちづくりのための地域貢献活動
●×株式会社

- ・地域の居場所づくり
- ・多世代交流型イベントの実施



**【ユニクロ】
高齢者と障がい者のための買物支援**

開店前の時間に貸切サービスを実施

ゆっくり買物ができて良かった。

普段は着ないような派手な服を買った。10歳は若返った。

住民ニーズや地域課題

- ユニクロでのお買物支援イベントは継続して開催中。
- R6年1月末時点で11件の相談有。
 - ・フードパントリー活動
 - ・地域の不燃物当番 などの活動につながった。

5 市民啓発などの取組

① 取組一覧

市民啓発の取組

5月

- ・高知大学生への講義（行政実務講座）
- ・民生委員・児童委員，ケアマネジャーとの意見交換（三里地区）
- ・三里ふれあいセンターフードドライブ

6月

- ・初夏のまちを美しくする運動（ほおっちょけんと参加）
- ・とさでん交通との意見交換会
- ・日本たばこ産業高知支社社員に講演

7月

- ・旭地区民生委員児童委員協議会高齢者部会研修会で講演
- ・「Re Think プロジェクト」紙面フォーラム 高知新聞掲載

8月:

- ・オーテピアでイベント開催
「ほおっちょけんがオーテピアをジャックする!？」

9月

- ・校長会で講演
- ・青年会議所との意見交換
- ・高知高等学院の職員（教員）への講演
- ・イオンモール高知でイベント

10月

- ・こうち食支援ネット交流会
- ・行川学園人権参観日で講演
- ・第2回不登校支援推進協議会で取組を説明
- ・青柳中学校生徒会との意見交換会

11月

- ・市民活動サポートセンターとの意見交換会
- ・フジグラン移動スーパー出発式典
- ・秦ネットワーク会議で講演
- ・フードドライブ開催
- ・高知市スクールソーシャルワーカー研修会で講演

12月

- ・居宅介護事業所連絡会西部ブロック会で講演
- ・高知県立大学連続講座「地域共生社会を支援する」で講演
- ・機関紙「更生保護」に寄稿

1月

- ・地域学校協働本部研修会で講演
- ・仁ノ地区出前講座

2月

- ・機関紙「少年補導センターだより」に寄稿

5 市民啓発などの取組

② 写真

イオンモール高知イベント



三里地区意見交換会

(民生委員・児童委員、ケアマネジャー)



ほおっちょけん相談窓口 全体交流会



オーテピアイベント



フードドライブ



② 高知市社会福祉協議会の取組

	事業内容	取組状況(令和5年12月末時点)	進捗評価(令和5年12月末時点)		
			2024年度(目標値)	評価 今後の課題等	
「ほおっちょけん」のひとづくり	ふくしの心を育む	<p>○ソーシャルメディアを活用した広報</p> <p>①ホームページ 随時情報を更新できるよう業者との打ち合わせを行い、内容の充実を図った。 訪問ユーザー数(実人数)25,924人(内、新規ユーザー24,923人)総ページビュー数84,863回</p> <p>②フェイスブック フォロワー数737人、掲載回数30回</p> <p>③Instagram 名士チャリティ色紙展示即売会、きずな農園で活用 合計フォロワー数863人、掲載回数…210回</p> <p>④ツイッター 名士チャリティ色紙展示即売会で活用 フォロワー数1,139人、掲載回数210回</p> <p>⑤公式LINE 令和4年度から運用開始。既存ユーザーの囲い込み、更なる啓発を図る目的で活用。 友だち登録133人 投稿回数20回</p> <p>⑥子育て世代を対象としたイベントの開催 NPO高知市民会議と協働して子育て世代を対象としたイベントを開催。準備から当日の運営まで、民生委員や主任児童委員にも協力を得て、取組みを実施した。 (7月開催)子育て支援に関わる活動者同士の交流を目的に開催 参加者:34名 (11月開催)子育て世代を対象に開催 参加者:180名</p>	<p>【情報発信】</p> <p>・ホームページ運営 (アクセス数) 165,000/年 ※リニューアルにより実績値のアクセス数カウントできず、ページ閲覧総数が参照値となる</p> <p>・フェイスブック運営 (記事掲載数) 50回/年</p>	B	<p>ホームページの内容の見直しを継続し、市民へより情報の伝わりやすい形を検討することで、アクセス数の増加を図る。 動画を活用した広報、啓発活動をSNS等で行い、デジタルネイティブ層など、幅広い層へのアプローチを展開する。 今年度はモデル的取組として春野あじさい会館デイサービスの広報動画を作成中であり、他事業への波及を狙う。 子育て世代を対象とした取組等、これまで関わりの薄かった分野への働き掛けを強化する。</p>
		<p>○高知市内の各圏域において、地域共生社会の実現に向けて第2期地域福祉活動推進計画の周知を行った。</p> <p>①計画の説明8回(延べ181人) ②地域福祉コーディネーターのチラシ配布 343回(延べ人数3,702人) ③ボランティアセンターの説明 39回(延べ人数351人)</p> <p>○「ほおっちょけん」キャラクター広報物</p> <p>①「ほおっちょけん」焼印付どら焼き(菓舗浜幸協力)を62個販売。 ②名士チャリティ色紙展示即売会事業にて、無償で企業・名士の協力を得る。 ・昨年に続きトートバッグ専門ブランド「ROOTOTE」がほおっちょけんトートバッグを製作、SNSにて発信及び販売 ③市民等より地域福祉活動への寄付によりほおっちょけんバッジを10個配布 ④高知市内の小中学校等の児童生徒等への啓発のため、ほおっちょけんシールを4,098枚配布 (ほおっちょけん学習、ふれあい体験学習等) ほおっちょけんの気持ちを伝える絆創膏を作成、ほおっちょけん学習の際に78枚配布 企業版ほおっちょけん学習を実施した企業に認定ステッカーを1枚配布 ⑤ほおっちょけんポロシャツを就労支援事業所きずなで製作・販売 46着 ⑥ほおっちょけんボールペンをSDGsイオンモールイベント等で配布59個</p>	<p>ほおっちょけんシール配布数 5,000枚/年</p> <p>・ほおっちょけんバッジ 配布数1,000個</p>	B	<p>ほおっちょけんLINEスタンプ(高知県共同募金会地域力増進枠助成)を活用し既に繋がっている市民により市社協への愛着を持ってもらうとともに、ほおっちょけんガチャポン(高知県共同募金会地域力増進枠助成)を活用し、子育て世代など、現在つながりの薄い世代への啓発を模索する。 また年々周知度も高まり、盛り上がりを見せている名士チャリティ色紙展を活かした「ほおっちょけん」の啓発を検討していく。 引き続き、各地域に地域福祉コーディネーターが出向き、地域で活動する各種団体や組織の代表者、ボランティアや各種集いの場等のお世話役等に働きかけ、各種周知・啓発(地域福祉コーディネーター、ボランティアセンター、ほおっちょけん相談窓口等)を行う。</p>
		<p>○ほおっちょけん学習(福祉教育)の推進</p> <p>①ほおっちょけん学習の開催 開催数 保育園・幼稚園4か所 小学校(放課後児童クラブを含む)11か所 高等学校・専門学校での福祉教育の実施(春野高校、高知福祉専門学校にて地域福祉の授業を実施) 民間企業 3社 ほおっちょけん学習を受講した人 843名 学習に参画した地域住民 52名</p> <p>②福祉教育の拡充に向けた取り組み ほおっちょけん学習サポーターの養成 新規登録者 3名(総数76名) ほおっちょけん学習サポーターフォローアップ研修の開催 1回 基調講演「福祉教育の基本」 講師:聖カタリナ大学人間健康福祉学部社会福祉学科 助教 雑賀 正彦 氏 参加者:30名</p> <p>③ふれあい体験学習 受講生3,344人</p>	<p>【「ほおっちょけん」の展開】</p> <p>・ほおっちょけん学習 (福祉教育) 保育園等 20園 小・中学校 18校 地域・民間企業 40か所</p> <p>・ほおっちょけん学習 サポーター(新規) 40名養成</p> <p>【市委託事業】 5,000名/年</p>	B	<p>福祉教育は児童・生徒だけを対象としたものではなく、むしろ生涯学習の視点でも取組んでいく必要があるため、ほおっちょけんネットワーク会議等の活動を通じて、地域のニーズに触れ、関心を高めるといった福祉教育的機能を意識した場づくりを進める必要がある。 また、ほおっちょけん学習サポーターの新規養成を進めるとともに、先進事例の学習やこれまでの取組を振り返ることを目的に開催しているフォローアップ研修について、継続的に開催していく必要がある。 さらに、令和4年度から取り組んでいる福祉教育の取組への社会福祉法人の参画について、このような機会を増やすとともに、実施内容についても更に充実を図る必要がある。</p>

	事業内容	取組状況(令和5年12月末時点)	進捗評価(令和5年12月末時点)		
			2024年度(目標値)	評価	
ほおっちょけん「のひとりづくり」	活動につながるきっかけづくり	<p>○既存ボランティアへの情報発信 既存ボランティア登録者へ2か月に1回、ボランティア活動の情報紙を発送する。その情報によりボランティア活動へつながった事例44件。ボランティア情報とともに、コロナ禍でも感染に注意しながら地域活動を絶やさずにつながり続けることができるよう情報発信を行う。</p> <p>○ボランティア登録者の増加への取り組み こうち笑顔マイレージの受入施設は、新型コロナウイルス感染症が五類感染症に位置づけられた以降も外部からの立ち入りを制限する施設が依然として多く、ボランティアを受け入れる環境になかった。 ・こうち笑顔マイレージボランティア 新規登録者116名(総数487名) ・気くばりさん 新規登録者7名(総数377名) ・福祉委員 新規登録者8名(総数126名) 導入11地区 ・生活支援ボランティア 新規登録者 39名(総数105名) ・ほおっちょけん学習サポーター新規登録3名(総数76名)再掲 ・出張ボランティアセンター啓発ブースの設置 (オーテピア・いきいき百歳大交流会・介良まつり・医療と音楽の集い&福祉フェア・旭やるかいまつり) (新規) ･こうち笑顔マイレージ制度オンライン説明会 参加者:24事業所29名</p>	<p>【ボランティア登録者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こうち笑顔マイレージ 800名 稼働率80% ・気くばりさん 900名 稼働率80% ・福祉委員 導入25地区 500名 	C	<p>今後の課題等 新型コロナウイルス感染症が「五類感染症」に位置づけられた以降も、ボランティアの受け入れ施設の多くは自粛を継続しており、活動する機会の拡大には至っていない。ボランティア受け入れ施設に対してヒアリングを行い継続してマッチングを行っていく。 ほおっちょけん相談窓口の運営支援に合わせて、地域から上がるニーズに応じて登録者の少ない地区で生活支援ボランティアの養成を進めていく。</p>
	担い手がいきいきと活躍できる環境づくり	<p>○ボランティア団体への支援 ボランティア保険の案内受付</p> <p>○ボランティアのニーズ受付 関係機関からの相談件数108件</p> <p>○ボランティアのマッチング 寄せられた相談に対して気くばりさんやマイレージボランティア等をマッチング 189件</p> <p>○ボランティアの研修 生活支援ボランティアの登録者エリア拡大に向けて各地区で養成講座を開催(新規エリア:上街・春野) 生活支援ボランティアスキルアップ研修～木枯し紋次郎セミナー～ 参加者13名 生活支援ボランティア養成講座を修了し登録している方を対象により専門的な知識を習得することで、地域での支え合い(互助)の活動の円滑化・活性化を目的としたスキルアップ研修を実施した。</p> <p>○学生等の若い世代との協働 学生の地域活動への参加 延べ422名 地域福祉活動や街頭募金活動等を大学生や専門学生に情報提供し、ボランティアマッチングを実施(三里中)研修を受けた学生が、生活支援ボランティアと共に独居高齢者の資源ごみ出しを支援 (新規) (城西中)地域とのコラボイベントを開催 (新規) (高知高等学院)地区社協主催の敬老会を企画の段階から一緒に検討。学生が考え企画を実施</p> <p>○高齢者の社会参加の促進 こうち笑顔マイレージボランティアの登録者が登録施設でのボランティアにとどまらず、地域での困りごとへのちょっとしたボランティアへつながるよう情報提供を行った。 生活に関するちょっとした困りごと等をお手伝いする生活支援ボランティア39名の養成。(再掲)</p> <p>○生活支援ボランティアの活動支援 「ほおっちょけん相談窓口」に寄せられる相談の解決を担う人材を養成する仕組みづくりとして展開 生活支援ボランティアの活動を通じて、地域において困りごとを抱えた人や、気になる世帯の情報を得られることにより、地域における支え合いの意識の醸成にもつながっている。 企業による生活支援ボランティアの実施 (株)セントラルグループの新人研修の一環として、高齢者宅の年末の大掃除を実施。自力では難しい窓ふきや風呂掃除、草刈りなどを実施。 (新規) (株)日本たばこ産業高知支店にほおっちょけん学習を実施。地域の困り事と企業の強みを生かした活動を協議し活動展開を支援</p>		B	
	担い手の活動を支える	<p>○ボランティアへのフォローアップ体制 フォローアップ研修 「わたしができること、地域でできること」 参加者: 25名</p> <p>(新規) スマートフォン講座 アプリを使用してみよう 参加者:25名</p>	<p>【既存ボランティアのフォローアップ体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアに関する相談 件数100件/年 ・ボランティア連絡会2回/年 ・フォローアップ研修2回/年 	B	

		事業内容	取組状況(令和5年12月末時点)	進捗評価(令和5年12月末時点)		
				2024年度(目標値)	評価 今後の課題等	
ほおっちょけん のまちづくり	その人らしい暮らしを支える	福祉サービス利用支援(生活困窮者支援)	<ul style="list-style-type: none"> ○就労準備支援事業拡充 <ul style="list-style-type: none"> 利用者数:17名(新規利用者4名) 協力事業所の開拓(就労に不安を抱える方の受け皿の確保) <ul style="list-style-type: none"> 協力事業所登録数 ⇒ 30か所(新規開拓なし) 協力事業所での職場体験活動や社会参加活動へのマッチング ⇒ 1か所1名 参加者に応じたプログラムの実施(日常生活や社会生活の自立と就労に向けた準備) <ul style="list-style-type: none"> 見学体験・・・60回(6名) 就労準備プログラム・・・69回(3名) 就労訓練プログラム・・・149回(5名) 職場体験プログラム・・・0か所(0名) 社会参加プログラム・・・703回(17名) ほおっちょけんカレンダーの作成と配布 <ul style="list-style-type: none"> プログラム内でカレンダーづくりを実施。「ほおっちょけん」をモチーフに様々な種類を作成、各所に配布。 事業周知やほおっちょけんの認知度向上、利用者のパソコンスキルとモチベーション向上にもつながった。 A3壁掛け3種類307部、卓上用3種類312部 配布先:市役所各課、民児協、地区社協、町内会連合会、協力事業所、病院等関係機関、ほおっちょけんマンスリーサポーター等 事業参加者の就労状況 <ul style="list-style-type: none"> 就労継続支援A型・B型事業所にそれぞれ1名 計2名 		B	<p>8050問題との関連が深い高齢者支援事業所・機関への事業周知、連携による利用者に対するアウトリーチの実施。</p> <p>地元企業に対するの広報を行い、事業周知と理解による雇用の可能性の拡大が必要。</p> <p>一般就労が困難な利用者を福祉就労につなぐための障害支援専門職と連携する。また、福祉就労が困難な利用者を社会資源につなぐことで社会参加の機会の増加を図る。</p>
		福祉サービス利用支援(生活困窮者支援)	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症への対応 <ul style="list-style-type: none"> 生活福祉資金特例貸付及び償還業務の実施 <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で減収した方に対し、生活資金貸付の受付し総額7,562,100,000円(令和2年3月～令和4年9月末)貸付をした。 令和5年1月より特例貸付償還業務を開始し、借受人の困りごとを確認し、償還免除4,835件また償還月額変更483件の申請を受理した。 電話や訪問、手紙で生活状況等の把握に努めるなか生活に困窮している世帯については、高知市生活支援相談センターと連携するなどして課題解決に向けた支援を行った。(令和5年12月末時点) ○住居確保給付金の受付 <ul style="list-style-type: none"> 家賃給付の申請補助、受付業務を行った。(令和5年4月から住居確保給付金の支給要件等が一部改正) ○対応件数・・・13件 ○決定件数・・・6件 (うち、新規申請2件、延長申請2件、再延長0件、再々延長0件、再申請2件) 		B	<p>相談業務における職員の専門性の向上に向け係内における研修会を実施する。</p> <p>借受人が個別に抱える課題の解決に向け、高知市生活支援相談センターとの連携強化を図る。</p>
		福祉サービス利用支援(権利擁護の推進)	<ul style="list-style-type: none"> ○中核機関の受託 <ul style="list-style-type: none"> 権利擁護に関する総合相談窓口として、毎月35件程度の当事者による1次相談および専門機関からの2次相談対応に努めた。 専門的な相談体制整備として弁護士をアドバイザーとして配置。土日でない来所できない相談者のため年2回の司法専門職による専門相談会を実施 広報啓発として、各専門職団体、病院・施設、銀行、行政窓口チラシ等約4,000枚配布。成年後見制度活用推進のため出前講座等を10件実施 第7回市民後見人養成講座を開講。高知市内外の13名が修了し、市民後見人材バンク登録希望者4名となっている。 四国税理士会との共催によるセミナーを実施し、専門相談会を開催し、相談者20名に対応。市民向けの成年後見セミナーを令和6年2月に開催予定 困難事例の検討および市民後見人材バンク登録に関することについて、地域連携ネットワーク協議会を2回開催し、年度内に計4回開催予定 市民後見人材バンク登録者等の活用を検討し、フォローアップ研修の開催等市民後見人育成に努めた。 ○日常生活自立支援事業 <ul style="list-style-type: none"> 判断能力が不十分な状態になっても住み慣れた地域で過ごせるよう福祉サービス利用援助および金銭管理支援を提供。利用者数は約170名。 課題解決が困難な事例や判断能力が低下した事例については、成年後見制度へのつなぎを行った。 ○これからあんしんサポート事業 <ul style="list-style-type: none"> 円滑な事業運営のため支援内容の見直しを行った。 広域的な支援として、身元保証人等が不在による地域課題を抱える他市町村からの問い合わせに対し、情報提供を行った。 		B	<p>福祉サービス利用支援部門職員の育成を行い、成年後見制度利用促進に向けた行政や関係機関との連携を強化するとともに、市民後見人受任案件増加に向けて関係機関へ働きかけや活動の場として権利擁護支援員(仮)の雇用を検討する。</p> <p>判断能力が不十分な状態で適切なサービス利用が困難な方に対し、日常生活自立支援事業による支援をすることで生活基盤の安定に努めた。これからあんしんサポート事業は、支援上発生する課題解決などを目的に行った見直しに基づき適切に運用する。</p>

	事業内容	取組状況(令和5年12月末時点)	進捗評価(令和5年12月末時点)		
			2024年度(目標値)	評価 今後の課題等	
ほおっちょけん「のまちづくり	その人らしい暮らしを支える	<p>在宅福祉サービス</p> <p>○在宅福祉サービスの職員が個別支援の利用者周辺地域の困りごとに気付き、相談窓口等につなげる仕組み「地域はっと」の取り組みを実施している。</p> <p>地域福祉活動推進</p> <p>○各種会議への参画 各専門機関等との定期的な意見交換や日頃からの協議等通して、役割分担や今後のかかわり等について共通理解を深めている。特に、地域福祉コーディネーターと同様に地域づくりをコーディネートする機能を持つ地域包括支援センターとは、目的や機会を共有することで協働した好事例も生まれている。 ①地域包括支援センターブロック会33回 ②地域ケア会議 51回 ③地域包括支援センターとの意見交換 49回 ④障害委託センターとの意見交換 17回 ⑤スクールソーシャルワーカー(SSW)との意見交換 12回 ⑥認知症サポーター養成講座での協働 6回 ⑦個別支援分野との連携 226件</p> <p>○行政、専門機関、社協の協働による地域支援強化についての検討 ○屋上屋を重ねず、住民活動にとって「負担」とならない提案の検討</p>		C	<p>利用者様の困りごとや、地域の困りごとにアンテナを広げているが、「地域はっと」の実績は少ない。「地域はっと」に取組む意義を、再度職員等への周知を行い継続して実施する。</p> <p>各種専門機関や高知市の各所管課とは協働する機会も多いため、地域別共生カルテ作成の機会や日頃からの情報共有等を通して、役割分担や今後の地域へのかかわり等について共通理解を深める必要がある。 特に、地域包括支援センターとは、ほおっちょけんネットワーク会議の協働運営など、連携・協働体制の強化を図る必要がある。</p>
	ひとがつながる場づくり	<p>気軽に集まることができる「集いの場」づくり</p> <p>○「集いの場」づくり 立上げ支援 ①子育てサロン 1か所(総数 20か所) ②サロン 1か所(総数 78か所) ③認知症カフェ 1か所(総数30か所) ④子ども食堂 1か所 (総数40か所)</p> <p>身近な生活の困りごとについて考える「話し合いの場」づくり</p> <p>○住民が主体的に地域の中で課題解決できる仕組みづくり ・ほおっちょけん相談窓口寄せられる困りごと等を課題解決に向けて検討できる仕組みとして、ほおっちょけんネットワーク会議を実施(一宮、江ノ口西、秦、初月、旭、御畳瀬、長浜) 「話し合いの場づくり」の取り組みに関しては、地区の団体代表者等に働きかけを行い、既存の会議体の活用や機能拡充についても検討するなど、各地区の実情に応じた取組を支援している。 また、地域福祉コーディネーターと同様に地域づくりをコーディネートする機能を持つ地域包括支援センターとは、協働して会議を運営するなど、地域にとって負担感の少ない取組を提案している。</p>	<p>【ひとがつながる場づくり】</p> <p>・集いの場 ①子育てサロン 41か所 ②サロン 120か所 ③認知症カフェ 41か所 ④子ども食堂 41か所</p> <p>・話し合いの場 小地域単位 30回/年</p>	C	<p>新型コロナウイルス感染症の法上の分類が「2類相当」から「5類」へと移行し、ウィズコロナの意識も広がっており、コロナ禍によって希薄化したつながりをつなぎ直す取組が市内各地で広がっている。 ほおっちょけん相談窓口寄せられる困りごとの解決に向けた話し合いの場として、ほおっちょけんネットワーク会議の全市展開を進める必要がある。その際には、地域側の負担軽減を考慮し、既存の会議体の活用に向けて、地域団体の代表者との検討を進める必要がある。 また、会議の運営においては、同機能を持つ地域包括支援センターと目的や機会を共有することにより取組を発展させるという視点を大切に連携・協働体制の強化を図る必要がある。</p>
	多様な交流の機会	<p>多様な主体がつながる</p> <p>○地区社会福祉協議会連合会による情報交換会・研修会等の開催支援 ○ブロック研修会:1回「一緒にやろうや! ~若者×地域づくり~」参加者73名 ○世話人会:2回</p> <p>○福祉委員会の開催 朝倉地区・江ノ口東地区において福祉委員会を開催。日頃の活動の共有や今後の活動の展開に向けて意見交換を実施。 また福祉委員意見交換会を開催(6地区21名参加)。江ノ口東と朝倉地区福祉委員の活動を共有。福祉委員としてのやりがいや、新たな活動に向けての意見交換を実施。</p>		B	<p>新型コロナウイルス感染症の法上の分類が「2類相当」から「5類」へと移行し、ウィズコロナの意識も広がってきているため、開催方法等を工夫し、意見交換や情報交換の機会を設定していく必要がある。</p>

		事業内容	取組状況(令和5年12月末時点)	進捗評価(令和5年12月末時点)	
				2024年度(目標値)	評価 今後の課題等
「ほおつちよけん」のまちづくり	地域で共に支え合うしくみづくり	地域の生活の困りごとの解決に向けたつながりづくり	<p>○『ほおつちよけん相談窓口』運営及び開設に向けた支援</p> <p>①ほおつちよけん相談窓口の説明 97回(延べ1,861人)</p> <p>②既存の相談窓口に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回既存の相談窓口への訪問(相談内容及び状況の確認を実施) 相談件数68件(令和5年4月～令和5年12月末) <p>③相談窓口の新規開設に向けた支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに相談窓口となる薬局や社会福祉法人等への説明を地域共生社会推進課とともにに行い、民生委員児童委員、町内会などの関係者や支援機関へ周知を実施した。 		<p>A:順調である B:概ね順調である C:あまり順調でない</p>
			<p>○社会福祉法人連絡協議会の取り組み</p> <p>3つの部会(地域公益活動推進部会、相談窓口推進部会、災害対策連携部会)で取組を展開。出張ほおつちよけん相談窓口の開催や職員研修会の実施、複数法人が連携した福祉教育、フードドライブの取組を実施。また、令和4年10月より生活困窮者等からの相談対応を総合的に行うとともに、逼迫した状況にある場合には、現物給付等による経済的支援を行うなどの自立を支援することを目的とした事業を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活困窮者等の自立を支援することを目的とした事業の実施 ・SDGsの一環で高知市と共同で「出張ほおつちよけん相談窓口」を開催し、窓口の広報、啓発を実施。(相談件数10件、チラシ等、広報物の配布500セット) 		<p>B</p> <p>今後の課題等</p> <p>ほおつちよけん相談窓口のフォロー、相談対応、地域の中で解決できる仕組みづくり及び話し合い場の運営等については、継続して支援を実施していく必要がある。ほおつちよけんネットワーク会議の運営においては、地域包括支援センターとの協働を視野に検討を進めるとともに、地域における担い手の負担軽減を考慮し、地域の既存の会議体を整理し、同機能を持つ会議の活用について住民とともに検討していく。なお、地域の中で課題解決できる仕組みづくりに向けては、住民や地縁団体に加え企業や有償ボランティア団体等とのネットワークの構築を進める。</p> <p>また、ちょっとした困りごとに対応する生活支援ボランティアの養成を進めるとともに、既存の登録者のスキルアップを目的とした研修を継続して開催する。</p>
		<p>○災害時に備え、平時からの行政との協議体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国庫補助金を活用した災害VC運営経費の予算確保に向けた協議(地コミ) <p>○三者協定及び災害VC連絡会の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政を加えた四者災害VC検討会議の開催(3回) <p>○災害VCネットワーク会議の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害発生時にスムーズに協働できるよう情報交換を実施。(R5年度2回開催)うち1回は模擬訓練。 ネットワーク構成団体22団体(市社協含) <p>(新規) 災害VCの活動支援に関する協定をライオンズクラブと締結</p> <p>○研修や模擬訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知市災害VC運営模擬訓練(11月 参加者54名) <p>○災害VC職員研修及び訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県社協主催研修 <p>○奈良市社協、倉敷市社協との災害時相互支援協定に基づく連携体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良市社協、倉敷市社協担当者会議の開催(4回 Web会議)合同研修企画及び情報共有 ・奈良市社協、倉敷市社協合同研修(11月倉敷市会場にて実施 現地参加9名) 		<p>B</p> <p>既存の活動の継続・発展に向けて検討を進めるとともに、新規会員法人の増加に向けて広報・周知等の強化を図る。</p> <p>災害VCの円滑な運営に向けて、災害VCネットワーク会議の参画団体をはじめとする関係団体、行政と平時からの連携・協働体制を取りながら、災害時に迅速な対応ができるよう地域情報等の蓄積と、既存のネットワークを拡大し、強化していく必要がある。</p> <p>災害VC職員理解度指標の見直しを図り、指標に基づいた研修の実施・訓練計画の作成や、他市町村への支援メニューの整理、備蓄や資機材の整備に取組めなかったため、次年度以降段階的に実施していく。</p> <p>大規模災害時の相互支援協定を締結している倉敷市社協と奈良市社協の取組みを学び、復興支援のしくみづくりに取り組む必要がある。</p> <p>地域住民と協働した模擬訓練を継続的に開催し実践経験の積み上げを図るとともに、災害ボランティアの事前登録制度を導入する必要がある。</p>	

		事業内容	取組状況(令和5年12月末時点)	進捗評価(令和5年12月末時点)	
				2024年度(目標値)	評価 今後の課題等
市社協の機能強化	市社協の向上周知度の	様々な活動を通して知ってもらおう機会づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ソーシャルメディアを活用した広報(関心を高めるきっかけづくりへ記載) ○「ほおっちょけん」キャラクター広報物(「ほおっちょけん」の住民意識づくりへ掲載) ○ほおっちょけん出前講座の実施 11件, 受講者219名 ○地域福祉コーディネーターの地域支援活動を通して, 市社協の周知を行う ○活動報告誌を作成し, 当会に寄附いただいた方に対し活動の周知を行った。 	【高知市社会福祉協議会の知度】 ・「名前も活動の中身もよくており, 活動も少しは知っている」人の割合 市民 50% 町内会長・自治会長 70%	B 引き続き, ほおっちょけんキャラクターを活用して, 広報媒体の拡充を図る。 活動報告誌を通して, 当会がどのように地域生活課題に対して取組を行っているのか発信を行っていく。 市民に対して更に情報発信をしていくため, ユーザー数がより多い広報媒体(公式ライン)等で動画を活用した広報の強化を図る。
	地域福祉コーディネーターの役割・機能の明確化		<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアパスの運用による計画的な人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ①【OJTの実施】 新任職員へのOJT担当者の配置 ・入職3年目までの職員を対象に, 月に1回程度「フォローアップ研修」を実施し職員が学び合う場づくりを行った。 ②【OFF-JTの実施】 ・高知県市町村社協連絡会, 高知県社協主催のコミュニティソーシャルワーカー養成研修を受講した。 ③【SDSの実施】 キャリアパスと自己啓発カードを連動させ, 目指す地域福祉コーディネーター像を明確にするとともに, 個人の課題を自ら考え目標設定をすることができた。 ○制度の挟間や潜在化している生活困窮者への支援, 個人の権利を擁護するための専門的な知識や技能の取得に向けて, zoomを利用した国, 県, 県社会福祉協議会主催等の研修会や連携会議に積極的に参加し, さらに職場内での共有も図っている。 ○地域支援事例検討会やフォローアップ研修会(配属3年未満対象)を行うことで, 職員同士が学びあい高めあえる機会になるとともに, スーパーバイズを受ける機会にもなり, スキルアップにつながった。 ○地域福祉活動推進部門職員と相談支援・権利擁護部門職員が東西南北の圏域ごとに, エリア連携会議を開催し, 職員の相互理解とコミュニケーションの円滑化, 個別支援と地域支援の一体的な展開による市社協内での部門間連携を強化している。 		B 地域福祉コーディネーターとしての経験が浅い入職3年未満の職員を対象とした「フォローアップ研修」は定着し, お互いが学び合う機会になっており, 今後も継続し取り組む必要がある。 また, 「地域支援事例検討会」を通じて担当地区以外の地域の実情を知り, 追体験すること, スーパーバイズを受けることにより, 質の向上を目指す必要がある。(地域) 引き続き, 他機関主催の各種講座・研修に積極的に参加し, 地域福祉の向上に取り組む市社協職員としてのスキルアップを図る。(総務) 市社協内の連携強化の取組として実施しているエリア連携会議については, 各圏域のリーダーが集まり, 圏域で解決することが難しい問題, どの分野にも属さない制度の狭間の課題, 課題解決のために不足する資源の創出に向けた検討などを行う必要がある。
	複合的な地域福祉課題への解決力の向上	様々な相談に対応できる職員の育成			
	地域福祉課題に取り組む組織的チャレンジ		<ul style="list-style-type: none"> ○地域福祉課題への取り組み <ul style="list-style-type: none"> ①高知市, 高知市民生委員児童委員協議会連合会, 高知市地区社会福祉協議会連合会, 市社協の4者合同主催の高知市社会福祉大会において, 社会情勢に沿ったテーマを掲げて啓発等を行う。 「地域を支えて好きになる～多世代の地域参加を目指して～」をテーマに開催。多世代の地域参加を実際に取り組む4者からの実践発表から学ぶ内容とし, 事後アンケートでは「良かった」「とても良かった」が91%を占めるなど非常に好評であった。若者が地域で取り組む姿を見て希望を持たせたとの感想もあった。 ○ファンドレイジングの取り組み <ul style="list-style-type: none"> ① 寄附アプローチ 令和3年度に開始したほおっちょけんマンスリーサポーター推進の一環として高知市医師会へ協力を依頼, 274の会員事業者に対しパンフレットを送付した。 既に申込み来ており, 引き続き企業等にアプローチを継続する。 その他の寄付として1法人及び1名の方から計735万円の寄付を受け, 生活支援相談センター, 南部障害者福祉センターの車両を購入した。 ②自主財源の確保 「ほおっちょけんマンスリーサポーター」制度の拡充を図った。 ○共同募金の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ①高知市共同募金委員会助成事業の実施。15団体へ助成を行う。 ②助成審査の見直し, 公募助成先のインタビュー実施 ③公募助成先に呼び掛けて街頭募金を実施(4団体6名参加) ④地域力増進特別助成事業の助成金を活用した啓発事業の実施 「赤い羽根」×「ほおっちょけん」バッジ500個作成 		B 社会福祉大会では関係機関との継続した取り組みを進めるとともに, 現在社会におけるタイムリーな福祉課題に焦点をあてた啓発ができるような取組を推進していく。 ファンドレイジングの取り組みでは, 課題解決に向けて組織的に取り組むため, 外部研修への参加や職員研修を継続して開催し知識を習得する。 令和3年度末よりマンスリーサポーター制をスタート。 自主財源の確保に取組むとともに, 当該制度の推進を行う事自身が市社協引いては地域福祉の推進に繋がることを意識した取組を進めていく。(総務) 共同募金としては, 地域共生社会の実現に向けて, 多様な主体と「つながる」ことにより協力し, 地域生活課題を解決する取り組みや活動の地域福祉の財源としての役割を果たすため, 助成金の効果検証を高知市共同募金審査委員会にて実施し, 取り組みを推進していく。(共募)

<報告・協議事項>

(2) 地域福祉に関するアンケート調査結果

令和5年度 地域福祉に関するアンケート調査結果 (概要版)

令和6年2月
高知市健康福祉部地域共生社会推進課

1 アンケート調査の概要

項目	市民アンケート	民生委員児童委員	町内会・自治会長	専門職
対象者	16歳以上の市民3,000人 大街ごとに無作為抽出	R5.10.12時点実数 684人	約1,138人	各専門職
回答率	1,178人/3,000人回収 39.3%【前回44.8%】	572人/684人回収 83.6%【前回82.6%】	719人/1,138人回収 63.2%【前回37.1%】	433人/731人回収 59.2%
実施時期	R5.9.27～10.24	R5.11～R6.1.24	R5.11.12～12.28	R5.5.11～5.26
内容	地域福祉全般に関すること 【NEW】 孤独・孤立に関すること (国調査を活用)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における助け合いの状況 ・集いの場に関すること ・住民の困りごとへの対応状況 ・市社協の周知度 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・市社協の周知度 ・複合課題を抱える世帯について 	

専門職の内訳

- (1) 高齢
 - 【直営】基幹型地域包括支援センター 【直営・委託】地域包括支援センター
 - 【民間】居宅介護支援事業所ケアマネジャー
- (2) 障害
 - 【直営】障がい福祉課 【委託】障害者相談センター 【民間】障害者相談支援事業所
- (3) 精神・難病・成人
 - 【直営】健康増進課
- (4) 子ども
 - 【直営】母子保健課 【直営】子ども育成課 【直営】子ども家庭支援センター
- (5) 困窮
 - 【委託】生活支援相談センター 【直営】第1・第2福祉課

2 アンケート結果まとめ

1. 孤独について

- **高知市と全国は同じ傾向**。(孤独感が「しばしばある・常にある」と答えた人の割合は5%弱。)**【資料編P5】**
- **孤独感が「決してない」と答えた人の割合は2割程度**。**【資料編P5】**
- 国の調査では、最も孤独を感じている人の割合が高いのが30代女性7.9%、次いで50代男性7.3%だが、高知市では、10代女性15.8%、30代女性11.5%、40代男性10.0%であり、**一部の層の孤独感が国より高い**。**【資料編P7】**
(最も高い10代女性は、3人／19人)
- **単身世帯が最も孤独を感じている人の割合が高い**。(10.7%)**【資料編P8】**
⇒30代女性が最も高い。(50.0%(3人／6人))
- **経済的な暮らし向きが「(大変) 苦しい」と答えた人の孤独感が高い**。**【資料編P9】**
- 孤独を感じている人に影響を与えた出来事は、**家族関係や知人の変化(死別・離別・病気等)よりも、自身に直接起こったトラブル等が孤独感を強めている**。**【資料編P10】**
- **ご近所付き合いの程度が深いほど、孤独を感じている人が少ない**。**【資料編P12】**

2. ご近所付き合いについて

●市民アンケートにおけるご近所付き合いの現状**【資料編P13】**

- 「挨拶をする程度」または「立ち話をする程度」と答えた人が、全体の65.1%。「ほとんど付き合いはない」または「近所にどんな人が住んでいるのか知らない」と答えた人は、全体の15.5%となっており、**8割強の人は、深いご近所付き合いをしていない**という結果となった。
- 前回調査時から、**さらに希薄化が進んだ結果**となっている。
 - ・「何か困ったときに助け合える付き合いである」: ▲0.9ポイント
 - ・「お互いに家を行き来したり、楽しく話をする付き合いである」: ▲2.1ポイント
 - ・「近所にどんな人が住んでいるのか知らない」: +1.4ポイント

●民生委員・児童委員及び町内会・自治会長が望むご近所付き合い

- それぞれ**7割程度**の人は「**助け合える関係**」を望んでおり、**3割程度**の人は「**挨拶をする程度**」が望ましいと考えている。

望んでいるご近所付き合い

項目	民生委員・児童委員	町内会・自治会長
お互いに助け合える関係	72.9%	66.5%
挨拶をする程度	25.0%	30.7%
地域でのつながりは必要と感じない	0.0%	0.8%
無回答	2.1%	1.9%

2 アンケート結果まとめ

○ **8割程度の人が、地域における支え合い・助け合いが「必要だと思う」「あった方がいい」と回答している。【資料編P16】**
 ただし、前回と比べて、「必要だと思わない」の割合が大きく増加した。(＋5.8)

○ **3割程度の人が、自分の地域では助け合いができていますと答えている。【資料編P18】**
 ※民生委員・児童委員及び町内会・自治会長は、6割程度が助け合いができていますと答えており、**地域の助け合いの現状認識の違いが大きい。**

地域で助け合いはできているか。

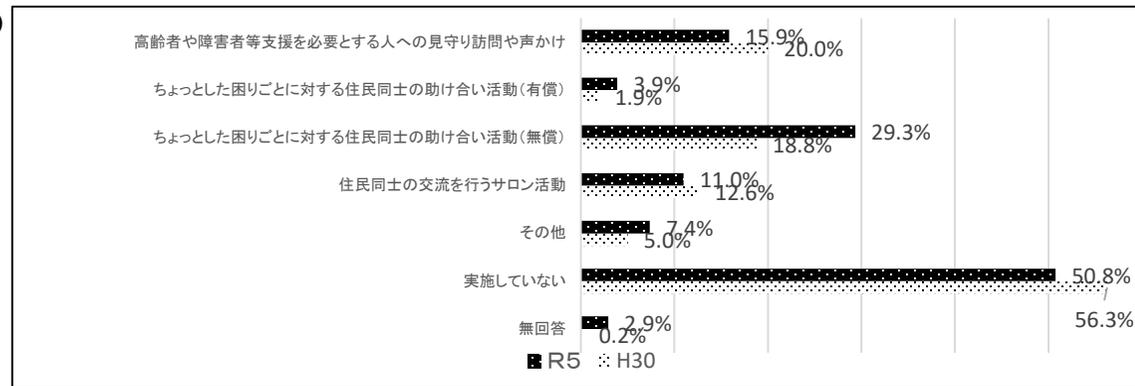
項目	市民	民生委員 児童委員	町内会 自治会
大変そう思う	2.3%	4.0%	4.9%
そう思う	26.1%	57.2%	54.9%
あまりそう思わない	30.6%	29.2%	25.0%
そう思わない	14.9%	1.7%	6.4%
分からない	25.0%	7.0%	7.8%
無回答	1.0%	0.9%	1.0%

○ 困っている人を「**支援したい(できる)**」と答えた人の合計は**63.4%**であり、前問で「地域における助け合いがあると思う」と答えた人の2倍以上となっている。【資料編P20】
 これは、「支援はしたい(できる)」のに、「助け合いがあるとは思っていない」人が多いということであり、**助け合いの仕組みづくり、生活支援ボランティア等の担い手確保には大きく伸びしろがある**と考えられる。

○ また、「**見守りや助け合い**」の活動をしていない町内会・自治会も**半数以上**あることから、地域活動の担い手不足と言われているが、「**やりたい**」と考えている**市民の受け皿が足りていない**現状もあるのではないかと考えられる。

町内会・自治会における助け合いの活動の状況

○ 困りごとを抱えている人は増加した。「自分や家族の健康」と「収入・家計」に困っていると答えた人の割合が高い。【資料編P24】

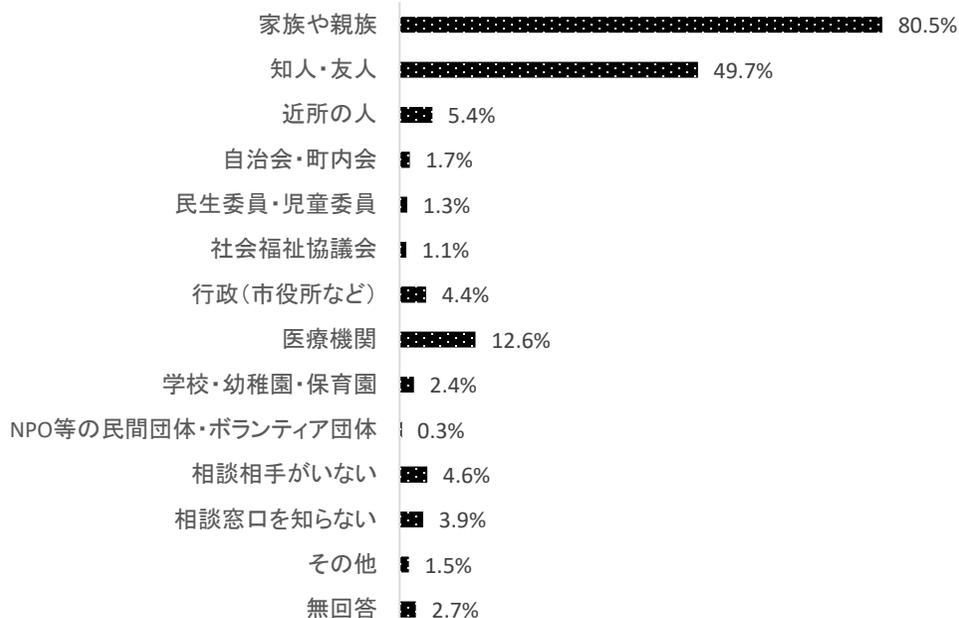


○ 高齢者や親の介護が必要な世代は「健康」、子育て世代は「子育て」など、世代によって特徴がある。【資料編P25】

○ **ほとんどの市民は、困りごとがあるときには、「家族や親族」「知人・友人」に相談すると答えている。【資料編P27】**
 一方で、民生委員・児童委員の約8割、町内会・自治会長の約6割は相談を受けたことがあると回答している。
 また、民生委員・児童委員や町内会・自治会長に寄せられる相談は高齢者に関することが多い(詳細は次ページ)。

2 アンケート結果まとめ

【市民アンケート結果】困りごとの相談先



相談対応の状況

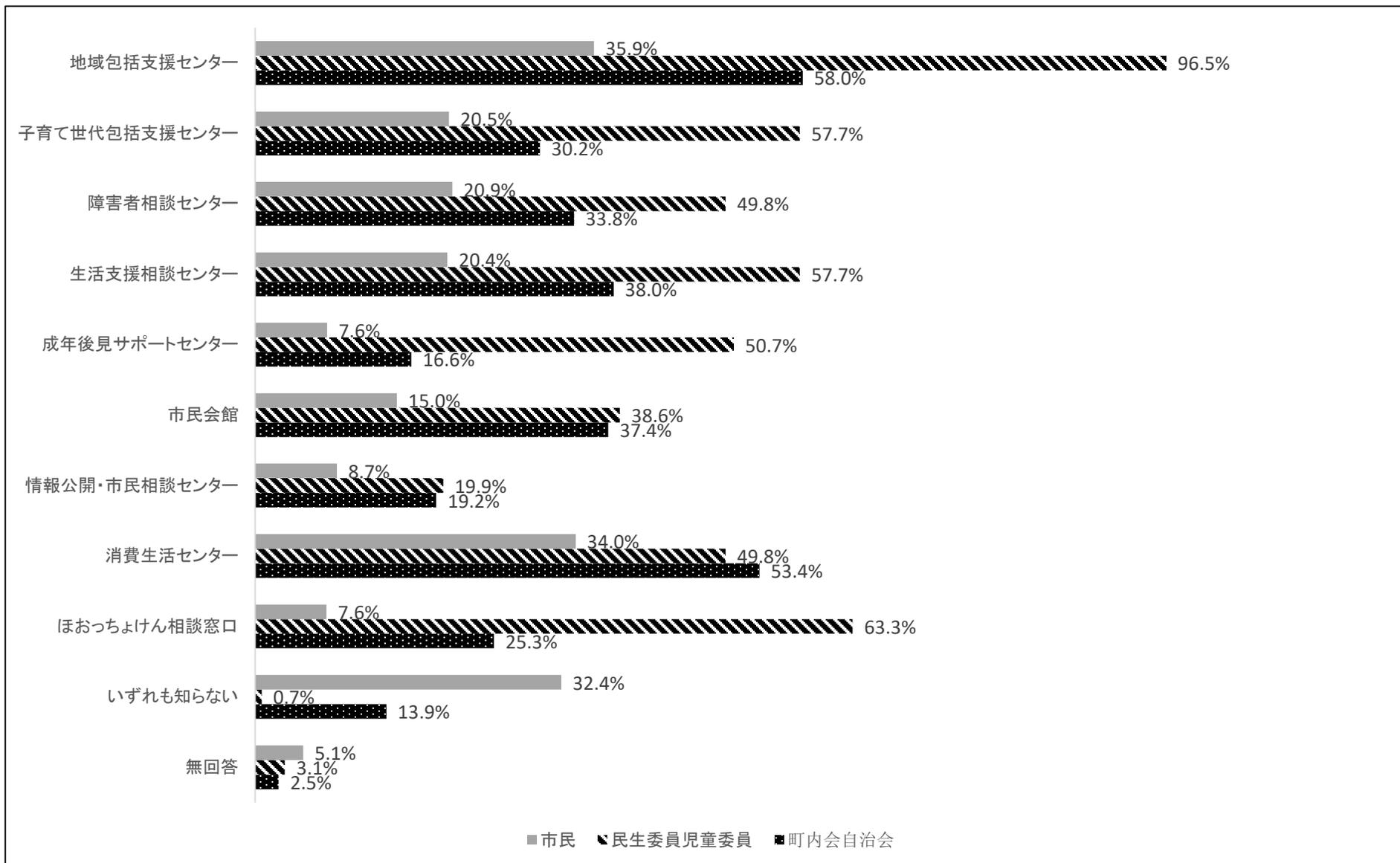
項目	民生委員 児童委員	町内会 自治会
困りごとの相談を受けたことがない	19.4%	37.8%
高齢者から相談を受けたことがある	64.9%	36.0%
子育て中の親から相談を受けたことがある	14.5%	5.8%
子どもから直接相談を受けたことがある	2.3%	1.4%
障害のある人から相談を受けたことがある	12.4%	6.4%
その他の方から相談を受けたことがある	32.2%	32.1%
無回答	2.3%	6.1%

相談を受けた具体的な内容

項目	民生委員 児童委員	町内会 自治会
介護	27.6%	10.7%
障害	7.2%	3.9%
子育て	8.7%	3.3%
経済的困窮	25.2%	6.4%
病気や健康	28.3%	11.5%
家の中の掃除	5.8%	1.9%
庭掃除	6.8%	6.0%
ごみの分類・ごみ出し	22.7%	31.0%
電球交換	4.2%	7.5%
買い物	7.7%	1.7%
家族との関係	12.6%	3.5%
ご近所との関係	29.2%	26.7%
社会参加	4.4%	3.2%
ひきこもり	4.4%	2.6%
不登校	2.8%	1.3%
ヤングケアラー	0.9%	0.0%
その他	9.3%	13.6%
無回答	0.9%	0.7%
困りごとの相談を受けたことがない	19.4%	37.8%

2 アンケート結果まとめ

○ 行政の相談窓口の周知度



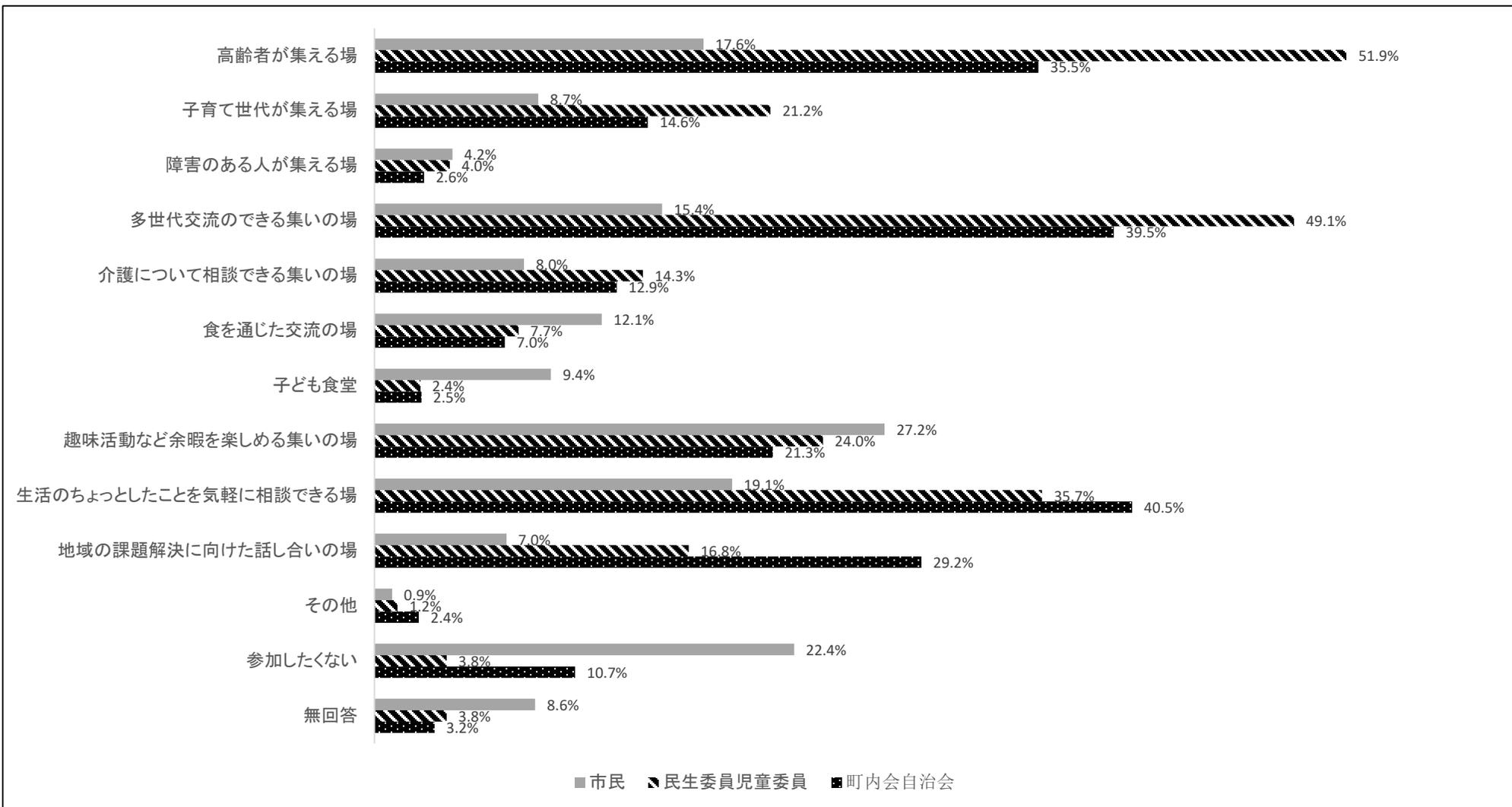
○ いずれの機関も一般の市民より民生委員・児童委員や町内会・自治会長の方が知っている割合が高い。

2 アンケート結果まとめ

- **約3割が、地域の課題を「分からない」と回答している。【資料編P31】**
「子どもに関すること」を地域課題と考えている人は、10～40歳代と50歳以上の世代に大きな差があり、**50歳代以上は、子どもに関する課題を感じている人が少ない。【資料編P32】**
- **地域活動に「参加している」と答えた人の割合は13.2%**で、「参加していない」と答えた人の割合は、6割を超えている。前回と比べると、「参加している」と答えた人の割合が▲3.6ポイントとなり、「現在は参加していないが、参加したことがある」と答えた人の割合が+6.5ポイントとなっている。【資料編P34】
- 参加している(していた)活動の中身は、**「町内会活動」と答えた人の割合が最も高く(53.4%)**、次いで、「ごみ拾いなど環境美化に関する活動」(47.3%)が高い。(前回と同じ傾向。)**【資料編P36】**
「高齢者、子育て、障害者の支援」など、人への直接支援は、女性の割合が高く、「防災、災害援助、環境美化、イベント・行事、町内会」などの地域活動は男性の割合が高いなど、**男女で特徴が違う。地域への働きかけの際の参考になると考える。【資料編P36】**
- 地域活動に参加したきっかけは、概ね前回と同様の傾向だが、「自分たちのために必要な活動だから」が▲4.9ポイント、「人の役に立ちたいから」が▲5.0ポイント、「趣味や特技を生かしたいから」が▲3.9ポイントなど、**自発的なきっかけがあったと回答した人の割合が下がり**、「誰かに誘われたから」が+4.1ポイント、「付き合いのためやむを得ず」が+0.8ポイント、「学校の授業などで機会があったから」が+3.0ポイントなど、他者からの誘いなどによるきっかけがあったと答えた人の割合が上がった。
男性は人に頼られたとき、女性は楽しさや学校行事をきっかけになることが多い傾向。【資料編P38】
- 「参加したい気持ちはあるが、参加できない」「時間ができたら参加したい」と答えた人が約半数となっており、**興味はあるが、参加できない方が多い**。また、2割程度の人は「参加したくない」と回答している。【資料編P40】
- 参加してみたい地域活動の内容は、「ごみ拾いなど環境美化に関する活動」と答えた人の割合が最も高く(35.0%)、次いで、「防災に関する活動」(29.6%)。【資料編P42】
- **地域活動に参加できない理由は、「高齢・障害・病気などのため」と答えた人の割合が高い。(60.1%)**
2番目に高いのは、「活動に関する十分な情報がない」(21.6%)となっており、さらなる情報発信が必要。【資料編P44】

2 アンケート結果まとめ

○ 必要だと思う(参加したい)集いの場



○ 市民の約2割の人は「参加したくない」と回答。

「多世代交流のできる集いの場」と答えた人の割合はいずれも多いが、市民の70歳以上は、他の世代より低く、一般の高齢者は、あまり多世代交流を望んでいないのかもしれない。【資料編P47】

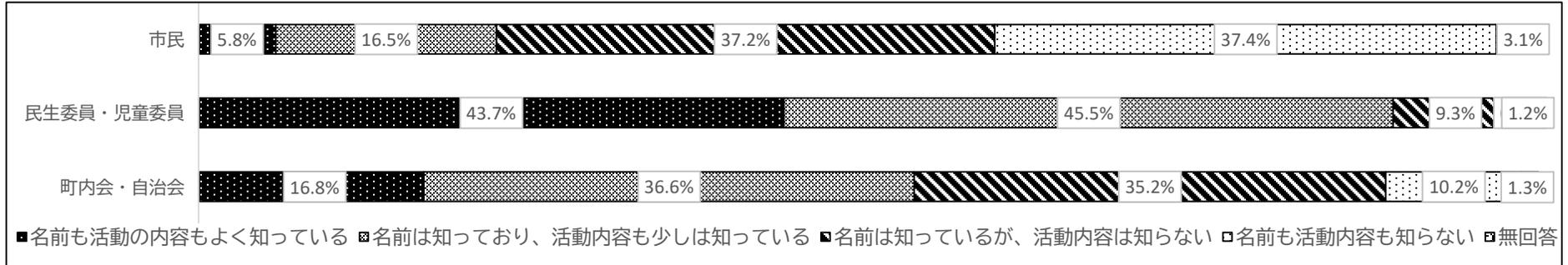
○ 市民の答えで最も多かったのは、「趣味活動など余暇を楽しめる集いの場」となっている。

2 アンケート結果まとめ

質問【地域福祉を推進し、住民主体の地域福祉活動のお手伝いをする「高知市社会福祉協議会」があります。あなたはこの組織を知っていますか。】

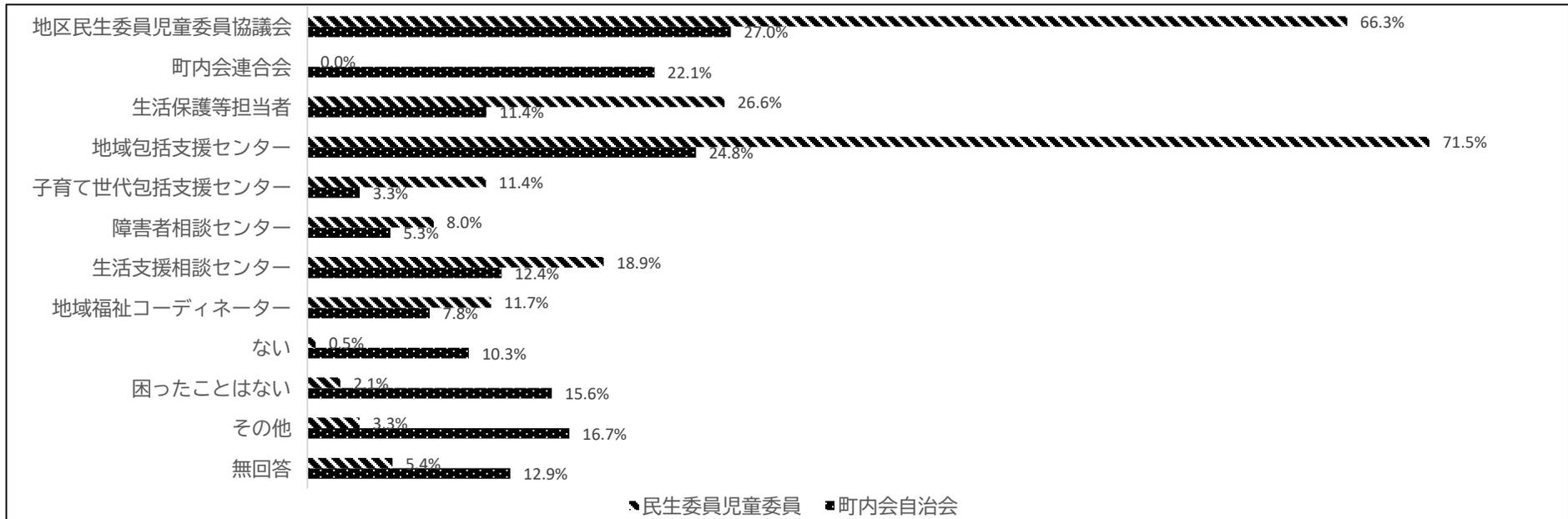
・市社協について、市民の認知度が高いのは、**ほおっちょけんネットワーク会議が活発な地域。**

(南街・北街・江ノ口, 秦・土佐山, 布師田・一宮)



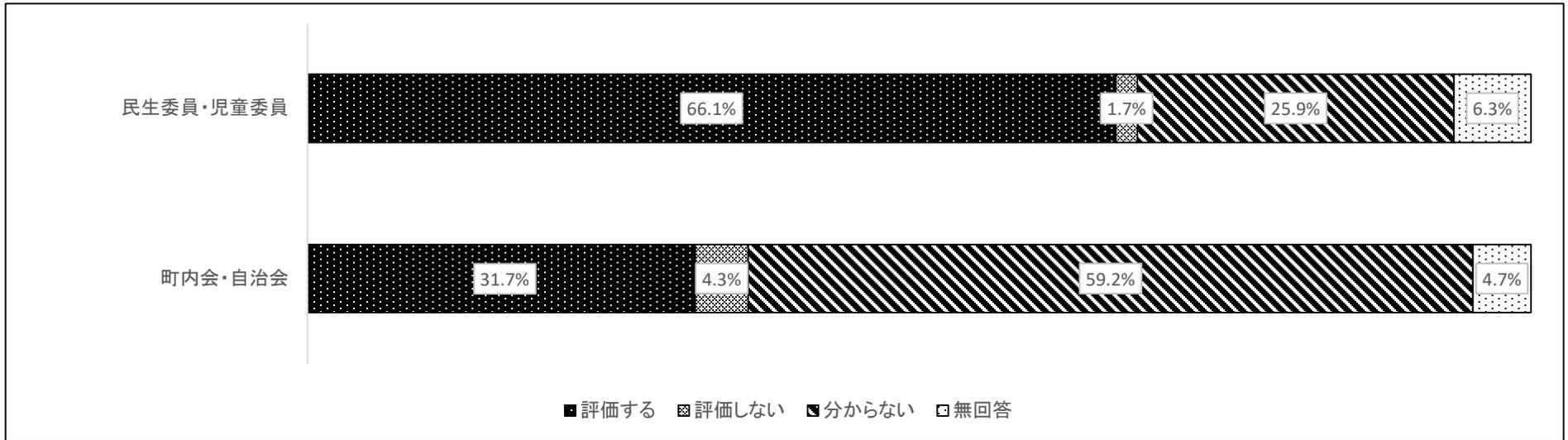
質問【住民の相談を受けて困った際、頼る先はどこですか。】

・「地区民生委員児童委員協議会」は、民生委員・児童委員の6割以上が頼りにされており、町内会・自治会の3割弱からも頼られている。



2 アンケート結果まとめ

- 「地域福祉の取組について評価するか。」の質問に対して、町内会・自治会では、「分からない」と答えた人の割合が高い。
情報発信や町内会・自治会とのさらなる協働を進める必要がある。



3 総評

- ご近所における**つながりの希薄化**が進んでおり、さらなる取組の推進が必要である。
- 支え合い・助け合いの現状について、**一般の市民と民生委員・児童委員及び町内会・自治会との認識が違う**。一般の市民にどう活動に参加していただくかが課題。
- 前回と同様、「**誰かを助けたい・支援したい**」と思っている市民の方は多くいるため、発掘・マッチング次第で地域活動は広がる。
- **ほおっちょけん相談窓口の市民への周知度は1割未満**であり、さらなる広報が必要。
- **ほおっちょけんネットワーク会議が活発な地域における市社協の認知度が高い**結果となっており、引き続き取組を推進する。
- **民生委員・児童委員や町内会・自治会長が困ったときに頼る先は、行政機関では、地域包括支援センターが圧倒的に多い**。

<報告・協議事項>

(3) 地域福祉に関する意見交換会結果

第3期 高知市地域福祉活動推進計画策定に向けた 意見交換の結果について

高知市社会福祉協議会 地域協働課



1. 概要

(1) 目的

第3期高知市地域福祉活動推進計画策定にあたり、地域福祉に関するボランティアの状況及び今後の課題を把握する。

(2) 実施内容

①福祉委員

平成26年度より委嘱を始めた福祉委員に対して、これまでの取組を通じた成果や課題、今後の活動の展開に向けた意見交換を行うことで、住民同士の助け合いや見守り活動を進めていく上での参考とする。

②ほおっちょけん学習サポーター

ほおっちょけん学習のこれまでの取組を通じた成果や課題、今後の地域展開に関する取組等について意見交換を行うことで、福祉への関心と理解、共感を深める機会づくりの取組を進めていく上での参考とする。

③生活支援ボランティア

地域での助け合いの意識や地域活動、ボランティアへの参加等に関して意見交換を行うことで、潜在的な地域福祉の担い手の発掘や効果的なマッチングを進めていく上での参考とする。

(3) 開催時期及び参加者数

	対象	開催日	参加者数
福祉委員	高齢者のひとり暮らしを心配している方、子どもの安全を望んでいる方、近所でのコミュニティや防災を考えている方、ボランティア活動をされている方、住民の集まる場でちょっとしたお手伝いをされている方など地域福祉への思いを持った活動をされている方。地区社協からの推薦による市社協から委嘱。	10月30日(月)	21名
ほおっちょけん学習サポーター	「先生」の立場ではなく、同じ地域の一員として、保育園・幼稚園、学校等で行う「ほおっちょけん学習」に参画し、世代間における福祉の気持ちを一緒に考える活動を行う方。	11月20日(月)	32名
生活支援ボランティア	既存の制度や福祉サービスでは対応しきれない生活上のちょっとした困りごとを無償でお手伝いするボランティア。	11月30日(木) 12月7日(木)	12名
		12月22日(金)	14名

2. 結果

(1) 福祉委員

対象	開催日	参加者数
福祉委員 交流会	10月30日(月)	21名



意見交換内容(要約)

福祉委員になって良かったこと・出来たこと

- ・「地域デビュー」が出来た。
- ・小1サポーターの活動。小学校の大変さも知れた。
- ・自分の住む地域を知ることができた
- ・人とのつながりが出来た
- ・自分の喜び、生きるモチベーション
- ・自分の子どもが喜んでくれた
- ・共同募金の助成金を使って、サロンを立ち上げ
- ・多世代交流サロンを立ち上げ
- ・高齢者と小学生の交流イベント
- ・活動に幅が出来た
- ・民生委員のサポート

活動の充実に向けて

- ・既存の組織等の動きと被らないように気を付ける
- ・町内会活動にも参加してみたい
- ・子どもたちの通学時の見守り活動の実施
- ・民生委員のサポート
- ・敬老会の手伝い
- ・他の地域の福祉委員との交流、情報交換
- ・老人クラブとの連携
- ・福祉委員の新たな人材の発掘
- ・福祉委員としての目的、目標の明確化
- ・若い方を巻き込みたい
- ・不燃ごみの再利用に取り組みたい

市・市社協への要望

- ・福祉委員の認知度が低いため、周知してほしい
- ・民生委員との役割を明確にしてほしい
(役割が明確な方が動きやすい)

2. 結果

(2) ほおっちょけん学習サポーター

対象	開催日	参加者数
ほおっちょけん学習サポーター フォローアップ研修	11月20日(月)	32名



意見交換内容(要約)

活動の良い点

- ・民生委員が協力して実施
- ・子どもたちと交流ができる。
- ・自分たちも元気になる(ボケ防止・若返り)
- ・高齢者のすごいところも見てもらえる(知ってもらえる)
- ・高齢者に目を向けてくれる(気にかけてくれる)
- ・毎年実施していると顔が分かる子どもが増えてくる

活動の課題

- ・子どもたちとサポーターでは「高齢者」の捉え方に違いがある。
- ・サポーターの高齢化、減少
- ・市社協に協力する立場で、主体的な活動ができていない
- ・子どもたちに「伝えたいこと」についてサポーター同士で話し合うことができていない
- ・学校に行ける機会が少ない
- ・学校とのつながり方が難しい
- ・子どもたちからの質問にどのように答えたら良いのか分からない

活動の充実に向けて

- ・高齢者は「かわいそう」にならないような働き掛け
- ・サポーターのつながりのある保育園に声を掛ける
- ・サポーター以外の高齢者とのふれあい(地域の高齢者の協力)
- ・民生委員だけでなく興味がある方にも広く協力を募る(連携協議会等にも声を掛ける)
- ・学習後の学生にその後の変化を聞く(フィードバックの機会)
- ・どんな子どもたちになってほしいかをサポーター同士で話し合う機会をつくる
- ・学習の機会に限らず、世代間交流の取組も実施
- ・保護者にも啓発する機会をつくる(参観日の開催等)
- ・親子で学習の内容について話し合う・考える機会を持つ
- ・普段の高齢者の様子を見てもらえる機会づくり(高齢の施設やサロン等に訪問する等)

2. 結果

(3) 生活支援ボランティア

名称	開催日	参加者数
生活支援ボランティア フォローアップ研修	11月30日(木)・12月7日(木)	12名
(株)セントラルグループ新人研修「ほおっちょけん大作戦」	12月22日(金)	14名



意見交換内容(要約)

やりがい 助け合いの意識

- ・綺麗になると気持ちもスッキリ
- ・お礼の言葉が嬉しい
- ・人から感謝される経験は貴重
- ・自分の生活能力の向上にも役立つ
- ・「出来る範囲」で活動できる
- ・制度ではサポートできない困りごとをサポートできる。
- ・地域と密着できる
- ・特技も活かすことができる。

- ・高齢者のひとり暮らしは大変ということに気づいた
- ・「誰かのために何かする」ということは素晴らしいこと
- ・人を助ける機会があれば、率先して取り組みたい
- ・他者とのつながりづくりになる
- ・自分で出来ずに困っている人は多い
- ・自分にとっては小さなことでも、相手にとっては大きいこと
- ・自分の身近な人から助ける
- ・困っている人ともっと関わりを持ちたい

活動の充実に向けて

- ・生活支援ボランティアの存在を百歳体操の参加者にも知ってもらおう。
- ・困っている人が「困っている」と言えることが大切
- ・地区の中でもっとボランティアを増やしていくべき
- ・依頼者とのコミュニケーションを密に取ることが大切
- ・若者の感覚が必要
- ・単発だけではなく継続した依頼も受けていいのではないかと
- ・各地域で生活支援ボランティアの仕組みをつくるのが出来れば、助かる人も増えるのではないかと。
- ・生活支援ボランティアが直接、話を聞く機会を持つことが必要。
- ・依頼受付から対応までのタイムラグをどうにかできないかと。
- ・無償だけではなく、有償ボランティアの活用も必要
- ・マイレージのようにポイントを貯めて還元ができればいい。
- ・障がいへの配慮、関わりの工夫について学ぶ機会

3. まとめ

<関連基本目標>基本目標1 地域共生社会の実現に向けた地域での課題解決力の強化(重点)
基本目標2 「おたがいさま」「ほおっちょけん」の住民意識づくり(重点)
基本目標3 地域活動など社会とつながる多様な交流の促進
基本目標4 地域や福祉の担い手づくり

01 「ほおっちょけん」の住民意識づくり

- ◎活動を通じて「地域デビューが出来た」という意見にもあるように、人とつながることで、やりがいや喜びにも繋がるといった好循環が生まれている。
- ◎活動を通じて、町内会活動にも興味を持つなど、活動への参加に対する意識に変化が生まれている。
- ◎「人の役に立つ」という経験を通じて、感謝される喜びを感じるとともに、「自分の身近な人から助けたい」といった、日常的な助け合い・支え合いの大切さにも気づくことが出来ている。
- ◎様々な分野における取組への参加を通じて、「自分の住むまちのこと」について関心を持つキッカケとなっている。

02 「ほおっちょけん学習(福祉教育)」の拡充

- ◎ほおっちょけん学習サポーターとして学習に参加することで、学習の大切さに気づき、それぞれが日頃から繋がりのある保育所や幼稚園等に働き掛けを行うなど、地域展開に向けた活動に繋がっている。
また、そのような活動を通じて、世代を超えて学び合う中で、世代間交流の促進や高齢者の社会参加の機会にも繋がっている。

03 活動につながるきっかけづくり

- ◎「若い方を巻き込みたい」「若い方の感覚が必要」といった意見にもあるように、発掘すべき潜在的な担い手の対象として「若者」への期待が高まっている。一方で、若者が「参加したい」と思える活動とはどのようなものか、活動に参加するためにはどのようなキッカケが必要なのかといった視点については十分な検討が出来ていないため、効果的な情報発信方法も含めて検討が必要。
- ◎ボランティア精神に基づく活動だけでなく、企業の社会貢献活動の一環として実施するなど、職業人としてのフィルターで地域と関わるという視点も重要である。

キーワード・取組の方向性等

多様な担い手の発掘と育成の仕組みづくり

- ◎地域福祉活動への参加の入口は「多様に」準備する。
- ◎生活支援ボランティアの活動を通じて、地域における支え合いの意識の醸成につながる。
- ◎「困っている人の役に立つ」という活動内容の明確さが、新たな担い手の発掘に繋がる。
- ◎住民が主体的に地域課題を把握し、解決を試みることができ環境の整備が必要(困りごとに触れる機会等)
- ◎活動者それぞれのニーズに応じたマッチングやコーディネートの実施

福祉への関心と理解、共感を深める機会づくり

- ◎様々な地域福祉活動への参加を通じて、他の活動にも興味・関心が生まれる。
- ◎活動を通じて、地域のニーズに触れ、関心を高めるといった福祉教育的機能を意識した働き掛けが必要。
- ◎学生や企業等の社会貢献活動と協働した取組の展開。